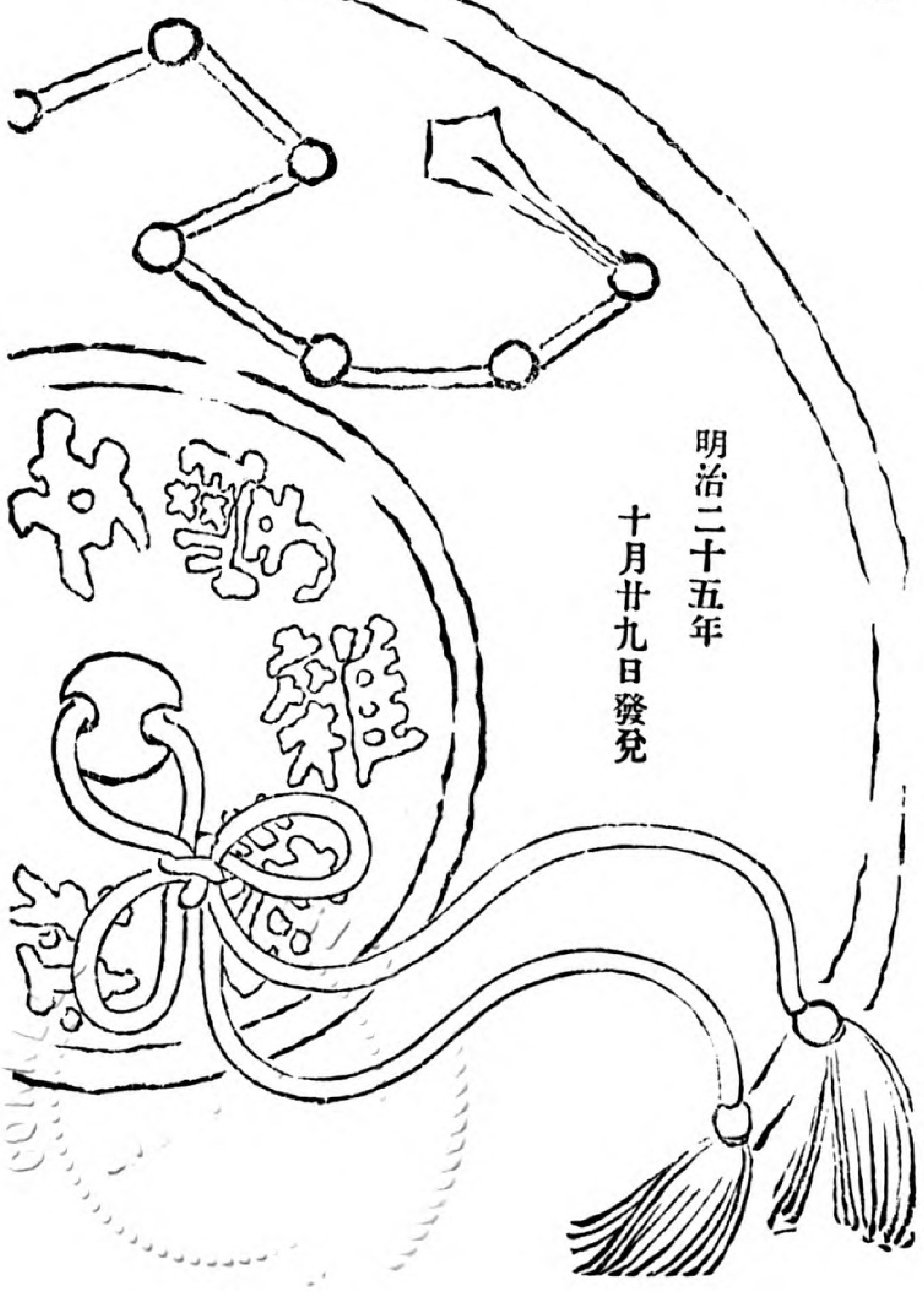
Oct. 1892
No. 330-2

女學雜誌

第三百三拾號
乙の巻



明治二十五年
十月廿九日發兌

注意

社説 **震災**一周年に際し**孤女學院**を憶ふの感は女子教育當路の諸君子及び日本婦女子惣躰の一讀を必らず要む可きものにて孤女學院の維持と教育とが何如に慘憺たる經營辛苦の中に發達するやを叙す**震地傳道隊**の一篇は此隊の由來と經歷とを憶ひ起して爾來傳道の振はざるを慨し深痛長歎四方に訴ふるの文とす**家政欄内**には彌よ實際有益の記事を増加し殊に茶話會の一席益〻にぎやかなり。**吾宿の花**の續稿と、臨終の母ウイラードの記事の結文とは引續き愛讀を促すに足らんか**似非物語**はひさご女史近ごろ切感の情を玉點々の歌に詠じ鬱勃たる不平を寸餘に漏したるもの極めて味多し**摘要**には万國婦人禁酒會同盟の會合年々に増加せる極めて精密の表を掲げ且つ主なる食品の養分々析表一覽を添**批評**には女禮及裁縫書の專門家の評を載**女報**は例の如く博集洽載無遺漏

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜 學 誌

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 330. October 29th. 1892.

EDITORIAL :—Anniversary of the Great Earthquake : A Retrospect of the "Shin-chi-Den-do-tai" (Evangelical Band for the District of Earthquake Disaster).

NOVEL :—"Asagawo"

BIOGRAPHYCAL NOTIS :—Madam Willard's Death Bed (Concluded).

CHILDREN'S COLUMN :—"The Flower of the Family."

HOUSEHOLD :—Table Talk (Housekeeping) : How to cook Sweet Potato: Suggestions about Cooking.

MISCELLANIES :—Yesterday and Today.

FRAGMENTS :—Auxiliaries of W. C. T. U.; Chemical analysis of Animal and Vegetable Food.

CRITICAL NOTES : A New Book on Etiquette and Sowing.

CONCERNING WOMEN.

本號（第三百三拾號）目次

●社說 震災一周年（孤女學院を憶ふの感）〇震地傳道隊
●小說 朝顔（遺言）（手習屋主人）
●史傳 臨終の母ウイラード
●兒鑑 吾宿の花（第七回の中）若松しづ子
●家政 おさつの料理法數種〇料理上の心得〇茶話會（訪問の順序、湯風呂の位置、井筒の用材、土藏の用意、器物は實用を主とすべし、臨時の風塞ぎ、牛乳と石灰水、人乳より牛乳への移らせ方）〇小金の砂二つ三つ（松茸の調理法、天麩羅の調理法、鰯の洗ひ調理法、湯豆腐の新調理法、柿の澁を抜く法）〇シヤレ一ッ〇
●雜錄 似非物語（ひさご）〇今昔ものがたり（人間の果報ものゝ巧者、（器の用ひ方）（樂二ッ）
●摘要
●批評
●女報
●孤兒之友

前週（第三百三拾號）白表

〇社說 我國目前の經濟界
〇論說 婚事雜感婚姻自箴、緣は天に在り、長し短し、爾ち自身の如くなれ、中央集愛、品性風采容貌、余に情交の愉快あり、）
江戸城下の奇兒 （天知子）
〇批評 保羅之傳 〇近江聖人 〇青年會月報
〇雜錄 秋窓雜記（透谷子）〇獨嘯偶錄（詩歌愛吟）是空子 〇文界要報（脫蟬子）書齋一興
〇小說 一青年異樣の述懷（つゆ子）
〇片々
〇附錄 教育學講義

前々週（第三百廿九號）赤表

〇社說 ウエスト女史禁酒運動
〇小說 夏草
〇兒藍 吾宿の花（若松しづ子）
〇雜錄 今昔ものがたり（忙中の一閑）〇過は人に嫁すべからず 〇諫に從ふ流るゝが如し 〇贋物の種類
〇史傳 臨終の母ウイラード
〇批評 荻花集說 〇楠公の夫人
〇摘要 犯罪上男子と婦人との比較
〇時事 孤兒院流行 〇孤女學院と監督ウイリアムス 〇女學復興 〇伏姬〇濠洲に於ける日本婦人
〇女報
〇問答 （山月子）
〇孤兒之友 （蓄勘子）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百三十號 明治二十五年十月廿九日發兌

社説

震災一周年

孤女學院を憶ふの感

孤女學院折々の有様は、社員畜勦子數しば之を記載し、殆んど遺す所ろなしと雖ど、余近頃其景況を細かに見て、深く感激し、更に一言を加はふるとの止みがたきとを覺ゆ。

回顧すれば、震天動地の大慘劇、西の方、名古屋岐阜の邊り一面に突如として起り、忽まちにして、山崩け、屋倒れ、老弱人畜數ふる所ろなく壓死したる無數の天災は、實に去年の昨日早朝數刻の間だの出來事にてありき。爾來一歳は夢の間に過ぎ、人の記臆も亦幻の如く消えがてあれど、當時之が爲に慘澹たる厄運に會せし族は、今に至るも其創、尚ほ癒えざる可し。

友よ。暫らく汝が思念を反して、去年の今日昨日、天地の景色の何如に物すごく、人事の何如に悲しかりしかを憶ひ見よ。余は、今まことく〱しく之を列擧せざる可し。

此時に當りて、家は東京にあり、親族は震災地になし、直接此の天災と何の關係あらざりしとは云へ、深く上帝の訓戒に心を打ち、謹んで警醒の念ひを振ひ起せし人勘しとせず。吾大須賀亮一君の如き、其中の一人なり。君が從來の經歷は、悉とく獻身の事業を以て、跡を印し、內外の人の、心ひそかに歎賞する所にてありしかど、君は尚ほ自反して其誠意と熱心とを足らずとなし、深夜、密林鬱樹の下に祈りして、切に決する所ろのものありしと云へり。

君は女子教育家なり。其着眼、つねに万事を此一點よりす。當時、醜業者の主人、此の大不幸の機會を僥倖として、父母を失なひたる可憐の孤女を買集めんとするよし風聞し、現に東京廢娼會員某は、名古屋に於て警察署長を促がし、俄然妙齡女子の轉籍を制止せしめたるに、一日にして八十餘名の奉公掛合中のものを引止め得たるとなど報道せられたれば、大須賀君は斷然淸决し、其所有財產一切を捐て、所謂る孤女學院なるものを設立するとゝなされたり。

此に於てか、直ちに親から震災地に走りて、實況を視察し、且つ岡山孤兒院を訪ひて孤兒教育の打合を爲し、后に人を派して、孤女を踪索せしめたり。此時、連れ歸りたる人數十五名、中に、生れ落ちてのち僅かに十五日を經たる緑兒あり。彼地に置く方寧しろ掛念す可き事情ありたるゆへ連れ歸りしとは聞けど、蠢爾として元氣なく、而も長途の車行に勞れて、勢力乏しく、生ひ立ち如何あらんと吾も人も深痛したり。

此の時に當り、此等十數名の孤女、及び彼の生后十五日の緑兒、並びに生后四十日ほどの赤兒なんどを養育する直接の責任は、實に年壯の男子大須賀君と、外一人の男友、並に、之より先き既に院に入りて此時既に兩君より多少の感化を受け有したる切ても助力者十三歳の孤女二名の肩の上にと落ちたり。もとより他に助けする人は少なからざりしとは云へ直接其責に當りて、晝も夜も泣き叫ぶ此多數の頑是なき少女幼兒を育てたるは、すべて吾子を持ちたる經驗なき、此等四人の年少者にてありき。

今より、回顧すれば、慄然として其危ふかりしとを感じ、經歷目下の如く、絕えて一個の失命者もなかりしは、寧しろ不可思議の成功と思はれたり。

其後、或る老婆、或る女學校の卒業生、或る警察署に長たりし人など、續々身を獻じて、院の事業に合力せんと申し込まれたり。人の手も稍や加はり、義捐の金圓物品も追々高を增し、新築校舍正に落成したる后ち暫らくにして、俄然院内に一種の傳染病起りぬ。

孤女にして此に感染せしものは、容易すく癒えたるが、大須賀君、及び彼の女學校卒業生、及び同類の合力者某の三氏は、遂に眞正腸チブスとなりて、東京第一醫院に入りき。

幸にして、三氏皆な日ならずして出院ありたれど、此頃よりして、去九月末に至る迄で、院の經濟は追々に困難となり、ことに、去月は、院の憲法を確守し、一錢を借用せずして月を越えんには、そも如何になすべきやと深く案ぜられたる由なれども、之も亦た不思議にして、眞とに切要の入用は、不足もなく、亦餘分もなく、恩寵によりて、恰かも好く備えられたりとぞ。

余、近頃院の景况を目擊するに、午前は惣べて簡易の學科を敎授し、午后は惣掛りにて、狀袋、卷紙、より糸などの製作

に從事し、夜は、談話をもて孤女が智識を開發するの定とし、安息日は嚴然清く守りて、其朝た正式の禮拜を催ふすとヿな り居れり。規模大方備はり、學院の躰裁畧ぼ成りたりと云へど、案慮す可きもの尚太はだ多し。

先づ大須賀君の爲に考ふるに、繁劇彼が如く、痛心彼が如く、更に肉を苦しむるヿ亦彼が如くんば、到底久しきを得可らずと思はる。教授及び監督の任は、言ふ迄もなく一身の上に荷擔し、殆んど毎日の如く、東京に通ひて、親から狀袋表番の類を賣捌く。而して、其腸胃の持症宜しからざる上に、近來腦痛にして血色極めて惡しければ、之に滋養及び安息を勸むるヿ切なる人もあれど、君容易すく承引せざる也。而して、其承引せざるは、他の合力者が滋養し安息せざるに先だちて、決して自から取らずと主張せらるゝにもよれど、亦實際切迫の事情あるが故なりとも聞けり。同君すでに如此くなれば、他の合力者も大率ね不當の勞働を爲せり。同君もと定まりたる部屋を有せず、僅かに敎場の一隅を其住家と爲す。故に、必要ありて、同君、甚はだ臭氣ある邊りに夜臥するヿあれば、合力者の中、之に忍びず、わざと、湯殿の内に眠るもありと云へり。吾黨は、此神聖なる事業の永久持續せんヿを祈るが爲めに、彼院の人に對しては、今后かゝる無理なる勞働を止めんヿを熱望するもの也。されど、世上の同志者は、亦た、彼院の人をして止むヿを得ずかゝる無理なる勞働を爲さしむるヿのなからんが爲めに、先づ之を制止するに要す可きものを準備せざる可らず。

此に至りて、吾黨は、世上同志の婦女諸君に熱告する所ろのものあり。夫れ、彼院の人々は、其全身と、一生と、其所有物と、其所有す可き惣てのものとを悉とく女性の爲めに獻げたり。もし、此孤女學院なるものなかつせば、孤女は、或ひは餓死すべし、或は醜業に身を沒すべし、たとひ之なしとするも、相應の敎育を受けて、一個の清潔有力なる婦人となるものは、殆んど稀なるべし。ゆえに、若し、孤女學院なるもののなかつせば、此等可憐の孤女を、養育し、保護し、敎成する、責任は、正に其力を有する婦女諸君が上に落つべきもの也。然るに、もし、其力ある婦女諸君にして、之を顧みず、己が衣裳を飾り、己が榮華に耽るヿを知りて、而して此等可憐なる同性の族の事を念頭に置くヿなくば、其人の心掛は實

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に憫れむべきものなり。其人たとひ他に慈善の事を爲すと言はんとも、現に同性の姉妹のうちに斯る不愍可憐の人あることを毫頭掛念せざるの心は、果して他の何如なる事柄に眞實の同情を表することを得るか、太はだ疑はしと云はざるを得ず。

左れば、もし孤女學院なるものなかりせば、力あり志ある婦人諸君は、必らずや身を挺んでゝ親から此院が今ま事業とする所ろに趣むき玉ふなる可し。然るに、今は既に此院あり、諸君は當に其志を此處に合して、此院の事業に助力し、以て其素懷と責任とを盡すべき也。

然るに、吾黨、孤女學院に寄附もしくは助力する人の種類をつく〴〵と視察するに、其人、內國人に少なくして、外國人に多く、婦人に少なくして、男子に多きは、不審千万の事なりと思はれたり。

外國にては、或る人々の協會にて決議し、年に一百弗づゝを寄附せんと申し込みたるもあり、又現に寄附金を募集せんとて、新聞紙に廣告し、又は奔走演舌する人もあり。一月以來の寄附金額は、過半外國より來れり。而して本邦に居留せる西洋婦人の中にても、同樣の盡力する人甚はだ多く、近頃は、夜具をミシンにて手づから縫ひ、多く寄附したる向もありと云へり。然るに、我國內にて、我同胞が爲す所ろの盡力は、必らずしも、之に優らずと思はるゝ節なきにあらず、是れ豈に限りなきの恨事ならずや。

而して、我國內の同胞が爲す盡力に於て、寧しろ男子の方に多くして、女子の方に少なきの形勢あるは、尤とも不審かし。もとより二三の女學校、一二の婦人會の格別なる盡力淺からずと見ゆるものもあれど、要するに、婦人諸君が、其の同性姉妹の爲に此大事業に對し當に念慮すべき丈の用心は、未だ汎ねく行渡らずとこそ見えたり。過日、築地なる二個の男學校の書生は、王子遠足の途中、此院を見舞ひ、大ひに感激して、其辨當及び菓子を寄附し、其歸路の滊車賃を寄附し、尙ほ門前にて説敎會を開き、更に銘々寄附金を合集したりと云へり。かゝる麗わしき談話を耳にする每に、吾黨は密かに、吾姉妹の爲めに、遺憾の念ひなきこと能はず。吾姉妹は同情に切なり、吾姉妹は、其同性者の事を忽諸にするものにあらず、吾姉妹は、献身慈善の事業に於て、決して男子に劣るものにあらずと辨じ、屢ば自から慰さめて、然して此信仰の實際

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に驗歷ある遲きを感じ、時として復た姉妹の爲めに遺憾の情を禁ずる能はず。

余は、近ごろ、女生に儉勤の德を語り、假りに下の一例を談ぜしことあり。云く、御身等必らずしも、新たに事業を起し、大ひに益せんとのみ心掛けず、先づ儉して無用の費を省くべし。日本に七百万の戸數あり、一戸に二三人の女子はあらん。母か、妻か、娘か。凡そ女性たらんもの、先づ申し合せ、一戸にて、月に一錢の儉約を爲すことせよ。蓋し、一戸にて平均月一錢の儉約は極めて易々たることにてあるべし。然れども、もし、一戸にて月一錢を儉せば、全國七百万のホームに於て、月に益する所ろ、七万圓、即はち一歳に於て、收むる所ろ八十四万圓なり。而して、八十四万圓は、帝國大學二個を維持するの金額なりと。

夫れ、一戸月一錢の儉約を以て、女子の爲めに、日本に二個の私立女子大學を設くることを得べし。然らば、一個の孤女學院を維持するが如きは、殆んど言ふに足らざるの事にあらずや。女學生が、其學資の中より月に一錢を儉約し、主婦が、其家政の中より月一錢を儉約し、衣裳を作る女子が一衣に付一錢を儉約し、髮を結ぶものが、一髮を止めて一錢を儉約し、下婢が一回の入浴を止めて月一錢を儉約するが如きことは、決して難事にあらず。たゞ、諸人、此院の性質を深く思はず、其責任の實は己が上にあることを悟らず、たゞ茫然放念して顧みざるによりて、出費月五十圓に超えざる眇乎たる一個の孤女學院をすら、尙安んじて成立せしむること能はざる也。

故に、吾黨は、日本の心ある婦女子諸君に熱告す。孤女學院の如き、美なる事業が、我國人の手によりて維持せられず、辛ふじて、外國の人の助力によりて成立するが如きことあらば、日本婦女の恥辱小ならずと思はざる可らず。又、女學校の女學生は、自己が不自由なく勉學するの恩惠を謝して、此の可憐なる同性者の爲に、一品半錢と云へども其義心同情の標徵を呈せざる可らず。又、凡そ女子敎育に從事するものは、何人を問はず、此院の事業に心を寄せ、自分輩に代りて此の大切要なる大事業に從事する献身者に謝意と助力とを呈せざる可らずと、要するに、我國の女子、及び女子の友たるものは、皆奮つて此院に助力し、此院の人をして獨り苦しましめず、獨り倒れしめざるの義務を有することを覺悟せざる可らず。故

に、吾黨は、彼院の人々の素志に反き、以上の記事を公けにして、世上の同志を促がさゞる可らずと信ぜり。此を爲すは、即はち女學雜誌たるもの丶義務なりと信じたり。讀者請ふ察せよ。

震地傳道隊

震災の一周年に當りて、彼の震地傳道隊の事を追懷し、坐ろに感慨の念ひを禁ずるヿ能はず。

此隊何の主旨によりて起りたるやは、今再たび喋々す可らず。たゞ當時に於て出で合ひたる一の反對は、時期尙早しと云ふヿにてありき。而して、此の尙早論は意外の勢力をもて、彼の隊を苦しめたるヿ尠少ならざりしと聞けり。

然るに、其頃ろ尙早しと唱へたる人は、何日比をもて恰好の時期と見做せしにや、頗ぶる不審かし。何となれば、其人は今に至るも尙ほ何等の盡力を爲さゞれば也。無責任の尙早論はつねに如此きもの也。

傳道隊は、其爲す可き丈けの事を爲して引上げ、心ヨりの式を擧行し、感謝の念に滿ちて解隊したり。當時思へらく、之より後ち、專門當路の人必らず、代つて任を負ひ玉ふべしと、然るに、今日に至る迄で各派の傳道會社に於て、之と云ふ經綸の定められたるを聞かず。

而して、天の警戒下り、一度び人心を衝動して、大ひに傳道の門戸を開かれたる、愛岐兩縣下は、忽まち戶を閉ぢ、光を隱し、爾來一層墜落したり。淫風、惰風、いよ〳〵盛んとなりぬ。嗚呼、いよ〳〵如此くして止まずんば、兩縣下將來の成行、果して如何ん。志ある人、何んぞ慨然として立ざる。

夫れ、傳道は戰爭なり。靈軍を率ゐて魔軍と戰ふ、豈に察機經綸なくして可ならんや。個人傳的道は、個人の爲す可きヿ也、此傳道は、人を擇ばず、時を擇ばず、常に斷えず爲す可し。但だ彼の傳道會社なるものに至りては、執務、大將軍の器量に則とらざる可らず、匹夫一騎打の小筆法に拘はる可らざる也。然るに、世の所云る傳道會社の爲す所ろを見るに、絕て、此等察機、經綸の運用を示さず、漠として常に定算なし。抑そも、傳道會社とは、何事を爲すものぞ。

吾黨は今の愛岐兩縣下を見て、痛恨の念に堪へざるもの也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

朝顔　手習屋主人

遺言（五回）

「母上今日は又菊地より我に來よと言ひおこせたれば今より行かんと思ふ。昨日佐藤が家を訪ひたるまゝまだ母上に何をも語らでありき。彼が住むあたりは籬の外はみな畠にて耕人の鍬をうてり。新しく建てたる家の處々に見ゆるは金持が市街の宅は人にゆづりて塵の來らぬかゝる處にうつり住居ふものならんと思はれぬ。又は靜かなるをこのむ畫工詩人などの住居ならん皆庭を廣くして多く松棕櫚などを植ゑたり。佐藤が家の門の前には細き流れのめぐりてしだれ柳淺緑の糸をかけたり。家は狹けれど淸く掃らひ椽へ出でゝ眺むれば遠き田の上の村里見えて黑き森の梢に水繪具もて描きたらんかと思はるゝ遠山の見ゆるなど見はらしよきこと限りなし。種々の書を取りみだして彼は長椅子に仰けに倚りていたく古びたるを見てありき。我に向ひて言ひけるは斯く蠹にさゝれたる古き書ども打ち散らしたる中に枕して是を繙き彼をながめ朝起き出づるより夕日の窓にあるまで日々かくの如し若し深く意にかなふ時ふと思ひ出づる事どもを筆採りて書き記すなりと云ひぬ。彼が妻にも遇ひぬ未だいと年若き人なりし。母にも遇ひぬ。十二三許りの愛らしき乙女面白げに琴かき鳴して居たるがこれも出で來ぬ。」「そは彼が妹なり。この乙女につきて我は此度御身に計らんと思ふことあり。」「そは如何に？。」御身は驚くならん……我は後〳〵此乙女を我が嫁と呼ばんと思ふ。」

我は驚きたり。今日に至りてかゝる問ひのあるべからずと思ひぬ。直ちに心を定めて否と云はんとせしに「彼は我が心にかなへり。まだ一度も御身が歸りてより我家を訪ふものなきは御身を耻かしと思ふにやあらん。彼はすなほにやさしき生ひ立ちにして兩親の特に學びの業を勵ますれば人となりて後必ず御身が片腕の助けとも成る時あらん。」我れ答ふる言葉はなかりしに「我が此度の病は日に怠りて一度は盡く愈ゆべけれどももとより微弱き此身にしあれば御身が永き船路に立ち出る事などもあらば相見ることを得ずして永く分るゝとあらんも計られねば此度歸りし間に我が言ひ置きたるを思ひ出す

度に何くれとなく御身に告ぐるほどに是を遺言と思ひてゆめゆめ忘れ玉ふべからず。」「我も亦斯く思ひ居れども一々問ひ出でんも餘り心弱く思ひ玉はんとを恐れて事のついでに心得置かんと思ひ居たりし。」「今言ひし事こそいと重き事なれば是を先づ定め置かん。御身は菊地の少女と共に共に育ちて互に睦まじく過ぎ來たれど今を限りに相分るゝ時の來れるなり彼は姸よき少女にはあれど幼きより絲を弄び舞を學びなど貧しき軍人の若芽の妻となるべき人にはあらず。かゝる花の如き人を我があばら屋の內へ伴ない來りて如何にせん。仇なる色香は消へ失せて悔みを來たすの時もあらん。又彼が母の甥にて此春の頃ベルリンより歸りて博士となりし醫士あり、むべなり此處に至りて母は一人の娘を明日の命をも知られぬ軍人の妻とするを好まぬようになりしことを。彼が父は其人と爲り少しも心を置かぬ人なればある日訪ひ來りて云ふ御身が今歲都に歸るの日此等に付きて自らいろ〳〵問ひ計らんと。今日御身を招きしはかゝる事ならんと思はれぬ。さらば御身は年も未だ二十に滿たず且つ軍人の嚴びしき規律もあり家を持たんことは三十の後なりと答へよ。」

嗚呼母の言葉はげに皆理なり、かゝる事共の見へずもありしかど我は口惜しと思ひて深く心に耻ぢぬ。今日まで我は房子と相分るゝ時のあるべきを覺えざりしなりけり。世の常の戀人の如く少しの疑をも起さず怖れ危むとなどもなくして何時と知らぬ間に我が園の花の如くに眺めつゝありしこそ悔しけれ。彼も亦我が如く自ら知らでやありけん今年の初つ方價高き指の環贈り越したりき是をも彼に返さんため今日菊地が家を尋ねてかゝる問をかけられたらんには母の敎への如く答へ又暇ある時房子にも相語りて打ち笑はん。

史傳

臨終の母ウイラード

未來を思ふて心に樂しみ給ふ

八月五日―午後二時頃、われ歌ひ母も歌ふ如くなりしが、只僅かに口に出でしは、永遠―之ぞわが望む處なり」と。一時の頃には醫師來りて一言二言話しせり。四時の頃、救世軍の一隊、門口に立ちて歌を吟じたりしが、母は之を聞きていと感じたるもの、如く見へぬ。後ち、われ言へり、「母上よわれ等は一生の間、心を打ち明けて樂しく種々の事話したれば、互に思ひ誤まらるゝ事もなからん、今は早や事新らしく話すべき事もあらざるべし」と、母は答へ給へり、「誠なり、わが子よ、多くの家には親族互に思ひ誤まれ、怨み嫉みなさする事ありと聞けど、わが家には眞にさる事はなかりきよ」と。

永眠の日

八月六日―わが母の慈眼は永遠を望み居たり、其深嚴なるを到底口に述ぶるを能はず、時々は眼を開きて、あたりの人を見廻し、殊によくわれを凝見たり。屢々大息するを聞く我等には、其悲しさ言はん方なし、又節々、力を集めて何事をか話さんと苦しみ悶へ給ひしも、舌の自由ならざる爲に、言ひ出し能はざれば、われは堪へられずして言へり、「母上よ、われ等は母上が言はんとし給ふ事を能く知れり、われ

等が悲しみは、言に出す能はず、母上がしか言はんさて、苦しみ悶へ給ふてはわれ等見ろに堪へず母上よ、われ等は、エドゥイン、アルノルドの詩を愛誦せり、今より後、終りの二句を改めて左の如くせん、

"The utmost wonder is This: I hear
And see you and love you and kiss you, dear;
And am your angel who was your guide
And know that though dead I have never died."

さ云ひて、母の傍に跪づき、母はわが頰に、われは母の額に接吻ぬ。われ又言へり、「母上よ、今は最後なるべし、われも亦遠からず後に從ひまいらせん、母上、われはフランクなるを見分け給ふや」さ母は只頭を下げしのみにて、「幸ひ」、「やすまれぬ」など言ひ出て給へり。

永眠の數時間前、「ベルリン」「メミー」、「いたく悲し」など、言ひ給ひしかば、われは「メリー、アンスケー、ウヰラードの一行に遇ひたく思召すや、われは宜しく傳へん」さ言ひしが、又只頷きしのみ。われ又母に依りかゝりて「母上よヨランドに宜しく傳へ給へ」さ言ひしに母は又頭を下げ給へり。昨日以來脈搏はたへ只かすかに心臟の鼓動を覺へ得る程なるも、日頃健康なりし故にや、倚われ等さ共に居給へり、此の日の午後五時頃、アンナさわれさOh, mother dear. Jerusalem,の歌を吟じたりしが其の終りの句は母の愛誦する處なりしかば、之を聞きて、僅かに手を上の方に指し給へり。後に至りアンナに向ひ、「さーらーば」さ云ひて眠に就くが如く見へけりわれ此の時に至るまでつら〳〵母を見まいらすに、少しも氣を失ひたる事なく、固く未來を望みて、失望し給はず、其樣を見ては、母が一生の間常に口にし給ひし、「君若し希望を有せは、之を人に分ち與へよ、若し疑を有せは、之を心中に秘め置くべし、何んさなれは、人々は既に餘る程の疑を自己の心中に懷けはなり」、さの言を思ひ出し、又天路歷程にバンヤンが言ひし如く、「命、命、永遠の命」さ叫びつゝ一直線に、不死の境に走せ入り給ふ如く感しぬ。

此最終の日、看病婦の忠告に從ひ、皮下注入をなして、苦を減じては如何にさ問ひしに、母は力を込めて明燎に、否、さ答へ給へり。

八月七日―六日の夜、息は既にたへ〴〵になり行けり、左れさ其引く息の音は、誠に樂しげにして、歌の如く、詩の如く、理想界に導かるゝ如く、神の御位に於ける音樂の如く、天の使の音樂は斯くあるものかさ思はれたり。われはわが兄弟姉妹の安息日に永眠し、又母の孫等の同しく日に生れしを思ひたれば、母も六日の夜を過ごし、安息日に至りて永眠せられなば好しさ密かに思ひ居たりしが、終に十二時の鐘は鳴り響きて母の息は僅かに安息日の部まて保ち、其後十二分間にして親しき家族朋友に取り卷かれ、靜かに永遠の境に進み入り給ひぬ、其最後の息は靜かにして、少しも苦しき樣なく、其の顏は既に天の使の如くなりき。斯くてわれは、神に其愛さ生さを與へ給ひし事を謝し、後に殘されしものゝ爲めに祈り一同主の祈を稱へ、アンナ、ゴルトンは自ら、母の眼を閉しめたり、夫よりわれは、人生の不思議さ未來の樂さを心に思ひて、わが室に退けり。

是より五分程經て、四方の親族朋友なさへ電報を發し、ケートには、牧師の許に行き、次の火曜日、祖母の葬式を爲したき由を告げさせ、われは、黑絹の忌中の標に代へて、白標の房を綠の木葉に取り卷き戸口に付けたり、半夜さは言へ、人々が集りたるため、此の靜かなる家も、俄かにさはがしくなりぬ。アゝ母の一生は、始より終に至るまで、一條の光線を以て貫きたりしよ。われは獨り人なき部屋に退きしに、母が愛せし瑞典生れの下婢が、われ等の爲めにコーヒーを入れつゝ不自由なる英語を以て、「わがみかみに、ちかづかん」さ、歌ひ居たりしも、いぢらしかりき。嗚呼われは今、此の世にて錨を下すべき處を失ひぬ、此の家も今よりは只家さのみにて、ホームならじ。アゝわれ母を失ひしよ、三十年姉妹メリーを失ひし時の歌を、われは再び心より歌ひ出てん。

（原文はウヰラード孃の手記せし者、母子の情文外に掬すべし、今譯する者其味を損する多し、玆處に其罪を謝す）。

譯者識す

兒籃

吾が宿の花

第七回（中）

若松しづ子

グラント主人は忙敷といふとなら自分こそと思ひましたが、さうは言はず、

併し商法家は退隱するが余程晩い樣ですナ。

さ樣です、矢張り金の出來るに隨て慾が出るのでせう。私等も悴に讓り渡すとの出來る迄は隱居する氣は有ませんナ。

此時グラント夫人が、

オヤ、それなら高等敎育は受けさせぬ積りかへェ、

エー、チャールスは學問に凝るといふ方ではないのです。實は大學へ入れる心持で居升たが、何分當人が大の反對ですから、據なくやめにし升た。

ルーセとアーサは互に驚いた眼を見かはし升た。世間見ずのおぼこ氣には高等敎育を望まぬ若者が有るとは夢にも想像し

ませんでした。チャールスに對する尊敬の念は大揺に揺ぎ升て、殆んど顚覆しさうでした。併しチャールスは元氣の好い利巧な兒で、いつもさえ／＼して居るので、誰にも好かれる樣になり升した。

此夜グラント夫人はルーセと共に叔父の寢間を拵らへに二階へ登りながら、小聲に、

おまへ叔父さんと懇意になればなるほど好になり升よ。

なんですか、今は嫌いな方だと思ひ升よ。

段々好になり升よ、中々立派な性質を持つてるし、兎に角わたしの弟だからチ。

母さまには少しもお似なさらない樣ですと。なんだかいつまでたつても、好にはなれ升まいかと思ひ升チ、家へ這入るか這入らぬにおなたのことやかうと惡るく仰つていすもの、たとひ貧乏だといつても、畢竟御自分も手傳つて貧乏になすつた暮らしぢや有ませんか？

ルーセがこの樣にいら／＼したのを母が見たは久し振でしたから、母は心に驚ろき且つ心配して、優敷聲で、

ルーセさん、おまへは不斷と樣子が違つて升よ。どうかおしではないか。

どうし升たか、近頃は何事も嫌に見へてしやうが有ませんの、私の部屋が寒いから出て居てはならんと仰つてから何分不愉快で、またヂリ／＼する樣になり升た樣です。

可愛さうにおまへのお祈りの時間を減らす積りではなかつたに。

矢張り優しく心切にしようと心掛けるとは心掛るのですけれど……此頃はモウさういふとは勉めないとはお思ひあさい升まいか。

どうしてそんなとは少しも思つたとはないがチ、おまへはわたしがこふわらせ度と思ふ通りなのが、モウ久しひとだがチ、たゞ今丈だよ。

母は心に大いに惑ひ升た。ルーセは外にこそ少し丑り現はして濟ませても、實は心經に非常な煩悶を患ひて居て、さてこそ、イラ／＼する樣子も見えるのであらうといふとを悟り升た。

ルーセはまた、

近頃は未た子供におれ升から、自分でも本當に心地が惡る

う御座い升が、知らず〳〵またぢれ升のです。どふも躰がわるい人はぢれても決して自分がわるいのでは有ませんよ、近頃おまへも身躰が壯健でないのですからチ。

翌朝ホイツテヤ氏は、

夕部はだれか大層咳いてゐる樣子でしたナ。誰です

母は、

ルーセです、あの兒はモウ幾週間も惡るい咳をし續けです。

かふいふ寒い氣候では、それも不思議では有ませんナ。どつか南の方へでも、お遣りなすつたらどうです、春もこゝいらは濕氣が多くて、寒いでせう、病いがこうじない中に、養生にお遣りなさるが宜しいでせう。

父は、

醫者は、とうからさういつて居るのです。

それにまたなぜお遣りなさらぬのです？

此言葉のあとは、一坐がしらげて、口を開らくものが有ませんかつた。「貧亡だから」とは誰も言ひ度くないといふのは、富裕の叔父の助力を哀願するに似て居たからです。そこで叔父はハチの居る方を向き、

おまへどふだ、わたしと一處に行つて、看病をさせて見ては？、

アレ、わたしはルーセさんでは有ませんよ、わたしはハチですもの。

と、ハチは、うろたへが少し納まると、いひ升た。

では、どれがルーセです？、

アーサは

今こゝには居りませんよ、アノ一番奇麗なのです、茶色の眼をした……

ウヤムラックといふ博物學者の後妻が歿したとて人が悔みに來り、イヤ、なんとも申上樣が御座いません、とんだ好い奥樣をお亡くしなすつて……言れて先生正直にいふが何よりもと思ひ込んで、

ハイ、誠に好く出來た女でしたが、わたしの朝夕扱かふ動物を懷けないにはチト困り升た。例へばチ、冬になつても蛇を寐間へ入れて暖めて遣らんのです！

家政

○おさつの料理法

敷稲　ふみ子

燈火稍親しむべき、黄葉の候より。未來の學者詩人たる、學生の帳下にも侍し。机邊にも伴ひて。彼が浩然の氣を、養はしむるものは、おさつなり。夜なべ仕事に疲れたる、田夫野人と膝を交へ。而して彼が、餓たる腹を、肥さしむるものも亦おさつなり。おさつの德大なりといふべし。されど貴人富者は、其の價卑しきが爲め、未だ其形を見ざるものもあらむ。されどおさつの味は、万人の之れを傳唱する所。予一人之れを、喋々するに非るなり。若し夫れ、婦人社會にて、其喝采を得るとの多き。食品中恐らく、おさつに如くものなかるべしと。小六かしき議論をいふ事は扨置き、予はおさつが、無類の味を抱きながら。空しく泥土に委して、人の爲に、(心中はいざ知らず表面上)賤しまるゝを氣の毒に思ひ。其料理法二ッ三ッ記して、更に諸姉に、紹介せ參らす。今やおさつの好時節、幸に此方法によりて、更に翫味し玉はむとぞ。

其一海苔まきいも　おさつを完にて蒸し、皮を去り、銅篩にてみそのかたこしのごとく濾し。淺草海苔を延べ、其上へ、厚さ一分位にむらなく延ばし。小口より卷て切るなり。

其二味噌漬いも　生にて薄く切り、味噌一層、紙一層、いも一層と。幾層にも之れを漬けて、能く漬りたる後、燒て用う。

其三かすていらいも　生にておろし、いもの精(生にておろし、水に入れ銅篩にて濾し。底に沈みたる、いもの精をとり。水を四五度易へて、日に乾し、貯へ置きたるものをいふ。寒中の製をよしとす、葛の代りに遣ひて、吉野葛にも勝れり)を少し合せ。雞卵砂糖を等分に入れ。やき鍋にて、上下に火を入れ、燒くあり。燒き罌粟を、其上にふりかければ、猶よし

其四雪花菜いも　いもの精を製する時の滓なり。油を少し鍋に煎つけ。醬油少しさし、麻子、陳皮末、黑胡麻、生姜をひとつに入れ。よく交ぜ合るなり。

其五ふはくいも　生にておろし、雷盆にて能く擂り、馬毛篩にてこし。雞卵打わりて、すりまぜ。醬油のだし汁を味よく爲し置き。能く烹へ沸りたる所へ、すくひ入れ。暫く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

蓋を爲して、能く沸き上りたる時、もり出すへし。胡椒の粉を上におくがよし。しやうじんには、薯蕷を用ひて、鷄卵に代へてよし

○鹽蒸やきいも　いもを土のまゝ、一寸水に浸し。鹽をひつたりと塗付けて。炭火に埋み、蒸やきにするなり。若し鹽竈よりかき出したる、熱き鹽に。其儘埋み、燒たるは。別段の風味あり。いもの料理種々ある內、恐らく之れに及ぶものはなかるべしといふ。

倘種々あれど畧す。若し厭ひ玉はずば、追々に申上ても宜し。

○料理上の心得

片桐石洲、料理を爲すに、輕き料理は猶味よく、類なきやう覺へしかば。或人石洲に向ひ、いかゞ致さば。さやうに風味能く出來るものにやと問たるに。石洲答て曰く、輕き料理に面白き心得方一ッあり。先づ輕き一汁二菜の料理をば。味能くせんと思はゞ。最初重き料理を能く爲覺へ。夫なり出たる輕き料理ならでは、味宜しからず。始より輕きを本とせば、味淡泊に過ぎて、麁相に失し易きものなり。又手重き料理をするには。元來輕き料理を、能く爲習はでは。味くどうして、惡しゝ。其故は重き料理の疵は、必ずくどく、したゝる過る點にあるものなればなり。要するに、輕きは、重きより出で。重きは、輕きと本とするものなれば、何料理にても、此心得なくては、鹽梅能くは、出來ぬ筈なりといひしと。今や和洋料理幷び行はるゝ時代。日本料理は、兎角淡泊に失し。西洋料理はまた、濃厚に過ぎ易き傾あるものなれば、二種の料理の、庖丁を掌り玉ふ奧樣がた。之れと同樣の御心掛あらば。双方共味を程能くし玉ふの、御一助ともなりぬべし。

茶話會

○訪問の順序

或人の話しに、用事ありて、人の許へ行く折ふし。其道筋に、久しく無沙汰したる人あれば、一寸次手に、是へも立寄りて行くべしと思ふ事。何人にも能くある事なれど、是は大なる誤なり、先づこゝろざして、行かむとする方に、何事のあらむも、計り難く。又一寸とて立寄りし處に、往々早く立難き首尾あるものなり。されば心ならず、時刻を移して。早く

立たき躰見ゆる時は、立寄りし方にも。却て疎かになすやう思はれ。又心ざす方の、用事をも欠く事とはなるなり。されば兩方共に、其目的をとり外すなり。故に先づ、用事ある方より先に濟せ。暇あらば、歸途に他を訪ふ事とすべしと。

○湯風呂の位置

湯風呂の桶を、片隅へ寄せたるは、腐りはやし。少し眞中に置きて、四方共に。風の通るを、好しとするなり。

○井筒の用材

井筒は、石を用うべからず。石にて造れば、衣服を損じ。又器物、石に觸れて、毀損することあり。

○土藏の用意

万の事、常に心を用ひざれば。急場に處して、其効なし。土藏は、素と火災の備なれば、常に其周圍の、破損に心を用うべし。戸前は常に開き置くものなれば。手先の、下らざるやうに、かひものをなし。一年の中に、二三度は、必開閉を爲し試べし。ひじつぼ腐り付き、又手先下る時は。火災の時、戸前しまらず、何の効なかるべし。

○器物は、實用を主とすべし

物を玩ぶは、志を喪ふといふ古言あり。器物は日常、其用を達するを、目的として購ふべし。若し徒らに珍奇を好みて、種々異形なるものを求る時は、其内の一個毀損したる時など、之れを補ふに、困難にて、全躰を廢物となすことも、あるものなり。又耳足など付き居るものは、その耳、其足の、用を爲すものに限りて、用ふべし。用なき耳足の付き居るは、是れ破損を來す基なり。われ嘗て、紫壇の下駄の表面に。薄き赤銅打つけたるを、珍らしとて購ひたりしに、其下駄重くして、二三町歩行ば、忽に足疲れ下駄の爲に車に乗りしこと度々あり。是より大に悟りて、下駄は輕く、穿き能きを旨として、購ふことゝなせり。何に限らず、器物を購ふには、此心掛なくては。外觀にのみ心を奪はれて、實用を欠くの恐あるなり。

○臨時の風塞ぎ

途中にて、肌に風の通りて寒きは、紙をもんで、幾枚も重ね、ちりけにあつべし。臍に當るも亦よし。(燒芋を買ひて、臨時の懷爐となすは、是變則的の事にして、予の知る所に非ず)。

○牛乳と石灰水

牛乳により、下痢を催すとは、往々あるものなり。殊に人工滋養によりて、育つる子供などが。牛乳の爲に、下痢を催すことあるは。免れざる事なれば、かゝる時は、牛乳に。石灰水を交ぜて、用うるを好しとす。分量は、大凡牛乳壹合に付石灰水小盃に一杯位とす。

○人乳より牛乳への移らせ方

生れて以來、母の乳、若くは、乳母の乳にて、育てたる小兒を。俄に牛乳に、移らしむるは、宜しからず。然る時は、腸胃を損ひ、又は牛乳に慣れざる爲め。之れを嫌ひて、無暗に泣き、容易に飲み得ぬものなれば。先づ牛乳に、移らしめむとする一二週前より。最初は日に一回、次は二回といふやうに。漸々に牛乳を用ひて。後には、牛乳を多く、人乳を少く飲しむるやうになして。遂に全く牛乳に移らしむるを可とす。但母親急病に罹るか、若くは俄に、他行の必用起りたる時は、此限にあらざれど、成るべく此心得あるべし。

小金の砂二つ三つ

女護嶋兒集

(十) 松茸の調理法

松茸の美食は燒くにあり、然し生燒けなるときは大に害あり、さりとて餘り燒き過れば香氣を失なふ。之を程よく燒くには先づ鹽水に暫時浸し置て後ち、よく洗ひて、之を金網に上せ、滑き木綿のふきんを濡して其上に覆ひ蒸燒にすべし。斯くすれば頗る美味なり。又何種の茸に限らず、毒の有無を試むるには、茸を鹽水に浸し置きて其中へ銀財を投ずべし、有毒のものは硫黄氣に感染して黒くなるべし、かゝるものは決して食すべからず。

(十一) 天麩羅の調理法

天羅麩は我國在來の調理法にては、水分多くして幾分か滋味を損ずるの遺憾なきにあらず、今此に述ぶる法は在來の調理法と異なりて、先づ肉、魚肉、蝦などを淪きて、之に麥粉を水に解かさずして、其儘塗り付けて揚げれば美味なり。

(十二) 鰯を洗ふ調理法

鰯の新鮮なるものを、脊より開きて二枚にあげ、小骨を取り去り、皮を剝ぎ取れば惡臭を去るなり、之を鹽水にて能く洗ひ水を切りて、生姜醬油を用ゆれば甚だ美味なり。

(十三) 湯豆腐の新調理法

追々寒さに向ひてだん／＼湯豆腐の好時節に成ります、湯豆腐を程よく調理致すには、其未だ豆腐を投ぜさる前に、湯の中へ茶匙に半分ほど、重炭酸曹達を加へて后に、豆腐を入れて温むれば、絹漉豆腐の様に美質に變じて、其味も一層加ります。

（十四）柿の澁を抜く法

近在にて柿の澁を抜に酒樽を用ひますが、今回米國からウエストと申す禁酒の女將軍が來られ、日本も禁酒軍勝利の時もやあらん、然る時は酒樽にて柿の澁を抜くとは出來ません、夫は兎に角、酒香のぷん／＼した樽抜はなんだか心持が悪ろし。今容易に柿の澁を抜く一法を述べんに。先づ透間なき大なる桶に藁と桑の葉を敷き、其上に澁柿を一列にして、又其上に藁と桑の葉を前の如く敷き列べて柿を一列にす、斯く幾累も交々列べて桶の中へ九分迄詰め、其上へ一盃に藁と桑の葉を詰めて后ち、沸騰したる湯を凡二十分間も醒し置て、手の未だ入るゝに耐へざる頃、之を柿の桶に流し入れて直に固く密閉し一夜を經て其湯を流し、然る后又一回前の如くして湯を取替て注ぎ入るゝなり、然る后一日を經れば、澁は全く抜けるなり、斯して抜きたる柿は桑の葉の香が移りて、甚だ香味なり、注意すべきは湯加減なり一度手心を覺ゆれば最早仕損じなし。

ある地方の判事百姓らしき證人に向ひ、

コレ、本當の事を言はんといかんよ。

百姓　ハア……ダガ、おらあふんとのとべいいふべいと思つても、おらあうつうまげてるからハア噓いふべいかと思つてなんすイ。

判事　貴様はちかつて眞をいふといふ譯がわかるか

百姓　ハアなんでがすと？

判事　最前から何をいへといふて居るのじや？

百姓　ふんといへちうんだんべい。

判事　噓をいへばどふなるといふとが分るか

百姓　そりやわしらあ方が勝になんだんべい。

雜錄

似非物語

ひさご

昔女、男のもの學びすと外國へ行ければ、たゞにやはとて物がたり女などものしける

もろ共にわたりわぶらん西東
へだつる海のからきうき世を

昔女、あひしる人出きにけり、日をぞふるまゝにかくなん思ひつゞけゝる

あへば又あはまほしさのそはりけり
あくことしらぬわがこゝろかな

昔男、ようもしらぬ女を、なまめかしき女郎花によたりなどいひしと聞て、其女はらだちてよめりける

などしかもなき名たつらん女郎花
その口なしのいろによずして

昔女ありけり、其母二方の道をゝしへてはけわしきとたやすきといづれにか行かんとすとひければ

やすきにはたれも行けりこゝしかる
山路をこえて花もみてこむ

かくてぞ其道にすゝみける

昔女、あやしきものにおもはれけり、かげも形もなくて雨の夜などふとひくめるゝこのものゝけ蚊の如きなき聲してかしらのあたり飛めぐり、羊のごと紙をあまた喰けり、とひくる時はみだりごゝちに成てよもすがら机にむかひかたらひけり、重なり行まゝに人も聞しりてこの女の事をぞいひはやしける、つねはえしらぬ事にて、ものゝけのしわざなればたゞ女はなき名をうたはれぬ、としたけ行まゝにものゝけもやゝはなれ、いつか消行朝霧の立よる事まれに成行につれてうちかたらふもうくおぼえけり、女

今更にむかしおもひてみわの山
すぎし月日のをしくも有かな

なき名いひはやさるゝをかなしとて足ずりしてなげどもかひなし

昔男ありけり、もとより友とする人二人三人して諸共に女許とひけり、その頃のよのさま、男女の分ちなくしたしうすなるがよしとて女のもとへ男のとふことゝこゝのみにもあらざり

けり、女は深き寵にたれこめ勝なりつれど心ざしのうれしさとつれ〴〵のあまりにあひて物語どもしけり、今も昔も人の口のさがなきにいつか人聞ておしゐてなる事どもいふに

　たはれしま涙のぬれ衣きするとも
　　岩のこゝろはうごかざりけり

かくて女は何事ともおもはで有けり、いつか男共のとはず成ければさすがにあはれにゆかしうて

　はじめよりよらでありましをろよと吹
　　風にたゆたふ磯のつりぶね

などそいひすさみけるとかや。

今昔ものかたり

秋玉庵輯

〇人間の果報

諺に、果報は寐て待て、といへることあり。されど何事をも爲さず、寐て居て果報の、來るべき筈はなければ。錬て待ての間違ならむと、いへる人もありし。成程是も、一理あるやうにはあれど。語調少しく、穩やかならぬやう覺ゆ。矢張是は、寐て待てといへるにて。意味は別にある事にや、いと覺束なし。其は兎に角、人間の果報といふものは。果して那邊にあるものにや。高樓台閣に住みて玉を炊ぎ、錦を褥とする人にても、憂の色を抱くあり。男はてゝら、女は二布して纔に夕顔棚の下に、涼風を迎ふる賤が家にも、喜の聲充つるはあり。子寶なきを憂ひて、神佛に禱るものあれば。生れし子を持て餘して、捨てに行く親もあり。人間さま〴〵、何れか福、何れか禍なるを知るべからず。只何事も天に任せ奉りて、己は心を平和に持ち。人として盡すべき責任を、尋常に果し行くこそ、何よりの果報にてあるなれ。むかし家康江戸城に入りて、天下を治められける節。毎度近侍の衆を召して、いろ〳〵お話しありけるが。一人の侍いへるやう、當世程、幼少なるものゝ、賢きは候はず。古の廿歳許りのものゝ才覺より。今時の十一二歳の者の智惠、勝れたるやう覺へ申候、さて〳〵後世恐るべき義に御坐候。と家康之れを聞かれていや〳〵夫れは能き事にはあらず。昔より人の申せしは、果報いみじき人の子は、三年になれば、三ッになるといふ事あり是誠に善き事なり。凡もの、飛越たるは。末に却て、惡敷なるものなり。不足は素より、いふに足らず。只何事も、其時

ほどの。似合しき心あるが、第一に能きなりといはれしとぞ。思ふに群雄並び起ちし、戰國の時に際し。能く一小部分の地を守りて、徐ろに天下の、己れが手裏に、落つるの日を竢ちたる心は、蓋し又是に、外ならざりしならむ。老練なる智者の言、深く後進の味ふべきことといふべし。夫れに付き、思ひ出たるは、或人の歌に

寐てまてど、くらせど更に何事も。なきこそ人の、果報ありけりといへるあり、是亦面白き意といふべし、夫是思ひ合すれば、果報を感じ、果報を來す、人世の秘訣なるものは、却て容易の邊にあるを、六かしき岐路に迷ひて、果報なきを歎ずるの人は、此家康の言を、味はれたし。

○ものゝ巧者

巧者といふとは、大切なることなり。甲の事を、甲の規則通り行ひ。乙の事を、乙の本質通りに爲すといふ事は。如何にも、能き事には相違なきも。夫にては、錦上に、花を添ふるといふ、一段の妙境には達せざるべし。矢張機に臨み、變に應じて。運用の際、種には心を用ひ、自家の發明を爲すを能しとす。是をのもゝ、巧者とはいふなり。茶伯利休嘗て其路次に、朝顔を多く植置たるが。今を盛りと、紅、紫、白などのくさ〳〵咲き出で。勝れて美しきよし、人々噂しあへりしほどに。關白秀吉此事を聞かれて。朝顔の花見がてら、朝の茶の湯を、利休に所望せらる。利休畏りて、御請けあせしかば。秀吉は茶の湯よりも、路次の朝顔さぞあらむとて、之れを樂しみに思ひて、利休の方へ行かれけるに、朝顔の花は、一輪もなし。扨ははや、こき捨けるにや。此花こそ、望にてありつるにと、いと不興げなる躰なり。此ほど朝顔の花の事、御前にて噂したりしものも。御供の中に、加はり居たるが。今となりては、僞を申けるやうにて、心苦しく。殊にはおのれ、内々にて利休に、朝顔の花、御覽なされたき思召なりと、告げたるに、其時は如何にも、心得たる狀して、ありけるが。こは何としたる事にやと、興をさまして、居たりける。やがて會釋濟て、數奇屋へ入て見玉ふに。今しも、手折りたらんばかりなる朝顔の、いと見事なるに、露をもたせたるまゝ、床の花入に、挿してあり。風情殘る所なく、一人趣き添ひて見ゆ。秀吉感賞淺からず、御機嫌斜なき躰にてありしと。其後或人利休に、其譯を問ひけるに。利休いふやう、路次の朝顔は、關白疾く

に、聞き觸れ玉へば。良し咲き揃へりとて、さのみ珍らしからず、さるによりて、一度花を忘れさせ參らせ、思ひがけなき處に、朝貌を入れぬ。是にて花の面影新しくなり、茶の湯の道、深くなりぬるなりといへりしとぞ。是茶道にのみ限らず、もの丶巧者といふものは、か丶る處に、心を用うるなり。序に記す、利休嘗て、紹鷗に就て、茶道を學びし頃。紹鷗利休の才を、試さんとて、利休に命じて、故らに掃除したる庭を掃除せしむ。利休命を受けて、茶室の前に至りしに。庭の面は拭へるが如く、一介の塵をだに止めず。傍の樹々は、薄く濃く、緑の色したるが、露にぬれて。青き苔、滴らんばからなりしかば。利休手を下すによしなく、何如はせんと、猶豫しが。不圖心付て、木の下に立寄り、其梢を搖かせしに、ひら／＼と風に從ひて散る木葉、地上に點して、一段の風趣を添へたるを覺へしかば、謹んで命を了りたる旨、紹鷗に報ぜしに、紹鷗之れを見て、其奇才を感じ、秘訣を盡して、利休に傳へ。終に宗匠の名を成さしめしといふ。是亦機に臨み、變に應じたるの、頓才といふべし。

○器の用ひ方

片桐石州といへるも亦、茶の湯の名人なり。此人煙草を好みて、常に之れを用ひけるが。煙草の火入れは、唐銅の渡りものにて。いと見事なるを用ひ居ければ、見る人毎に、之れは、火入には、惜しきものなり。香爐に御用ひあらば、見事なる、香爐たるへしと。屢勸めければ、石州絶て從はず。或人其故を問ひけるに、石州答ていへるやう。茶の湯の心得といふは、個樣の處にあり。之れを香爐にといふは、夫れは、道具を、殺し、捨るといふものなり。火入れに致し置けばこそ、無類とは見ゆるなれ。然るを若し、火入れには惜しとて。之れを香爐に擧げて用うれば。香爐中にては、下の香爐となるなり。されば善き火入を捨て丶、惡しき香爐となす譯なれば、之れを道具を、捨るとはいふなり。凡て物、善きにあらず、又惡しきにあらず。用ひ所に依りて、善くも、惡しくも、見ゆるなり。されば其用ひ人にこそ、上手下手はあるなれ。假令ば、大將の人を用うる如し。其人々の器に依りて、之れを應用せざれば、人才を殺すこと丶なるが如し。といへりとぞ。石州の言、万事に通ずるの、至言とこそ、いふべけれ。

○樂二つ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會津左中將保科正之（二代將軍秀忠の第九男）或時近習の儒臣、小槌與五左衞門といへるに向ひ問ひ玉ふやう、其方が身に、何ぞ樂ありやと。與五左衞門承り、如何にも私儀、樂しみに存候事二つ御坐候、其一ッは、第一私儀貧しきものにて御坐候故、絕て奢侈と申事は存申さず、若し富家に生れ申たらむには、奢をば、常の事と心得候て、禮義の道をも辨へ申間敷に、天然の貧乏に生れ候仕合に、夫等の過にも陷らず候段、冥加至極と存、朝暮樂しみ居候所に候と。さて今一ッはとの御尋に、與五左衞門、是は容易く申上難しとて辭退申上る。十日程を經る后、正之再び問ひ玉へければ、與五左衞門、何共是は、申上憎き事とて、躊躇す、尙ほ再三御尋ありしかば、謹で申けるやうは、大名に生れ申さゞりし事、是大なる冥加と、常々天道に對し難有存奉候と。正之其子細いかゞを問はせ玉へしかば、與五左衞門、左れば其事にて候、大名はあほうに御坐候、否生得賢き御方にても、家來より、あほうに致し申候、其は大名には、師匠朋輩と申もの無御坐候て、皆御家來のみに候故、兎角御機嫌に背かぬやうと計り致申候、夫故に少しにても善き事おわしませば、山の如くに賞めそやし、無理を仰せられても、御尤〱と申候故、遂には氣隨我儘におらせ玉ひ、夫より一言の諫をも申上られぬ事となり行申候。如何に聰明なる御生れにても、學問もなく、敎へもなくば、爭でか善き事知り玉ふ道候べき、さればあほうにお成り被成候事、當然の事にて御坐候。貴き人と生れて、却て人に欺かれ玉ひ、あほうにならせ玉ふと、大名ほどお痛はしきものはなし。私は之れにより、大名に生れざりし事を、冥加に叶ひ申候わけと、樂しみ悅び申候とて、恐入て平伏す。正之之れを聞き玉ひて、いしくも申たりとて、卽坐に二百石の加增を賜ひ、夫より學問を好み玉ひて、仁政を國中に布かれしかば、水戸の義公、備前の芳烈公と、並び稱せられ玉ひて、百世の下まで、難有君主の例に引かれ玉へりしなり。

今の世とても、一所の主長、一家の主婦たらむ人は、能く此小槌の言を味ひて、自ら省み、自ら矯むるとなくば、意を迎へて媚び諂ふもの丶み生じ、遂には己れの過ちを、知らでのと過ぎ行く事となりなむかし。

文藝

初秋

、、朝貌のとさせるまゝに通ひけり柴のあみ戸の秋の初風

、今朝よりや（すゝしくも）秋の通はん（こそ見ゆれ）村雨のはれし高根の有明のつき

評第二句にて下句さ關係はなれ語をなさす

、秋たつといふほとのみをあはれにて（朝夕のすゝしきのみを秋にし）萩（上）の葉さへも末たさ（そよ）はかす

朝貌

、、朝月夜さし殘りたる柴の戸を出て（明け）ゝぞ見つる朝かほの花

評清閑の雅趣あり

折にふれたる

、鷺のゐる野澤（間）の水の夕暮に（蘆間に）さひしくやどる三日月のかげ

評かゝる處にはなるべくさびしく詞を出さぬやうにすべし

玉

、和かの浦の濱邊（汐干）に出て思ふどちやまと言葉の玉やひろはん

評かゝる處に濱邊さいひては俗に聞ゆる也三津のゝゝ志賀のゝゝさいはゞ然らす

題しらず

、、花なしの名こそあたなれいちしく（ち?）のみのなるかたに我はまかせん

評趣向面白し寄植述懷さでも題すべきか

人丸朝臣

みれど〳〵あかぬけしきのこもれるは明石の浦（まがきが島）の春の曙

評人丸の題の詮なしそは人丸の秀詠に春曙あるを聞かされはなり添削にて島春曙さすべし

批評

(118) 日本の裁縫と女禮　水石女史

教授の項を五十日間に分け、言文一致の問答躰に記せり、餘程の注意をせしを見る、裁縫の說き方、親切にして精密なり、加ふるに細圖あり、一層の便利を覺ゆべし、女禮に至りては、小笠原流を取りしと思ふ處もあり、茶の湯の流より取りしと思ふ處もあり、或は其他の略禮もあり、少しく遺憾無きに非ず、言語の如きも、丁寧は丁寧なれども、こしらへたるが如き丁寧なるは、いと惜しき事なり、併しこれ程に多く集むるとは容易の事に非ず、著者の勞苦や想ふべきなり、思ふに此書は一と通り裁縫を覺へし者が、坐右に置きて至極重寶なる參考とならんか、余は此書の世間より厚遇せられんとを望む者なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

摘要

見よ世界婦人禁酒會の運動何如に長足の大進歩を為すか下に示す者は其全躰四肢駿々として進むの状なり

WORLD'S W. C. T. U. DIRECTORY.

Founded 1883.

President—Miss Frances E. Willard, Evanston, Ill.

Miss Alice E. Briggs, Office Secretary

Motto.—For God and Home and Every Land. Object: To unify the method's of woman's temperance work the world over, and to circulate a petition for the prohibition of the traffic in alcoholic drinks and opium, and other social reforms.

All members wear a little knot of white ribbon, and remember the noon hour of prayer for all temperance work and workers, and for the coming of Christ's kingdom.

AUXILIARIES.

Date of Organizat'n.

1874 *United States*—Miss Frances E. Willard.
1876 *Great Britain*, Lady Henry Somerset, 57 Gordon Sp., London, N. W.
1882 *Australasia*—Miss Jessie A. Ackerman, 28 Russell St., Melbourne, Victoria.
1883 *Canada*—Mrs. Ella F. M. Williams, 26 Chomedy St., Montreal.
1884 *Hawaiian Is.*—Mrs. Mary S. Whitney, Hono lulu.
1885 *New Zealand*—Mrs. A. J. Schnackenberg, Auck land.
" *Queensland*—Mrs. Elizabeth Brentnall, Coorparoo, Brisbane.
" *Victoria*—Mrs. Mary M. Love, Armadale, Melbourne.
" *South Australia*—Mrs. E. W. Nichols, Prospect, Adelaide.
" *Tasmania*—Mrs. Grace Saltan, Mildmay Cottage. Launceston.
1886 *Ceylon*—Mrs. Howland, Tillipally, Jaffna.
" *Sweden*—Madame Andersson-Meijerhelm, 17 Sodra Humlegardsgatan, Stockholm.
" *Turkey*—Mrs. Eleuka Nicoloff, Philippopolis, Bulgaria.
" *Japan*—Mrs. Kaji Yajima, Tokio.
" *China*—Mrs. M. J. Farnham. 18 Peking Road, Shanghai.
1887 *Siam*—Miss Edna S. Cole, Bangkok.
" *Straits Settlements*—Mrs. R. W. Munson, Anglo-Chinese School, Singapore.
" *Burmah*—Mrs. Julius Smith, 33 Fraser St., Rangoon.
" *India*—Mrs. M. D. Macdonald. F. C. M., Calcutta. Nat., Lecturer, Pundita Ramabai, Poona.
" *Cape Colony*—Miss Virginia C. Pride, Huguenot Seminary, Wellington.
1888 *Mauritius*—Mrs. Bishop Royston, Bishop Thorpe, Rose Hill,
" *Madagascar*—Mrs. Clark, Antananarivo.
" *France*—Miss do Broen, 205 Rue Honore, Paris.
" *Denmark*—Mrs. Elisabet Selmer, St. Œsterburg, 7 B III Œ., Copenhagen.
1889 *Chile*—Miss Mary Stout, Colejio Americano, Concepcion.
" *Natal*—Mrs. Laura Bridgman. Umzumbi.
" *Orange Free State*—Mrs. Mary W. Gray, Pretoria. South African Republic.
" *Sieria Leone*—Mrs. Bishop Ingham, Bishop Court, Free Town
" *Asia Minor*—Mrs. J. E. Pierce, Bardezag.
1890 *Corea*—Mrs. B. S. Ohlinger, Seoul.
" *Bahamas*—Mrs. Mary S. Duty. Nassau, New Providence.
" *Newfoundland*—Mrs. J. E. P. Peters. St. Johns.
" *Egypt*—Mrs. Mary S. Work, American Mission, Cairo.
" *Madeira Islands*—Mrs. Smith, Funchal, Madeira.
" *Spain*—Mrs. Alice Gordon Gulick, San Sebastian.
" *Russia*—Madame Olga Novikoff, care Wm. T. Stead, Mowbray House, Norfolk St. Strand, W. C., London, England.
" *Italy*—Mrs. Meuricoffre Naples.
1891 *Syria*—Mrs. Gerald F. Dale. Beirut, Palentine.
" *Greece*—Mrs. Rev. Kalopothakes, Athens.
" *South Afric Republic*—Mrs. Joseph De Koch, Pretoria.
1892 *Argentine*—Miss Mary S. Swaney, 949 Calle Commercio, Rosario.
" *Uraguay*—Mrs. Marinda Greenman, 242 Calle Facuaramba, Montevideo.
" *Brazil*—Mrs. E. E. Brelsford, Collegio, Piracicabans, Piracicaba.

Honorary President—Mrs. Mary Clement Leavitt, care of Messrs. Kidder, Peabopy & Co., Boston Mass. U. S. A.

Secretary—Mrs. Mary A. Woodbridge, Ravenna, Ohio, U. S. A.

Assistant Secretary—Miss Anna Gordon, Evanston, Illinois, U. S. A.

Treasurer—Mrs. Ella F. M. Williams, 26 Chomedy St., Montreal, Canada.

Bible Readings—Mrs. Hannah Whitall Smith, 44 Grosvenor Road, Westminster, London, S. W., England.

Press Reporter—Mrs. M. G. C. Edholm, East Oakland, Cal., U. S. A.

Scientific Temperance Instruction—Mrs. Mary H. Hunt, Hyde Park, Massachusetts, U. S. A.

Sunday-School Work—Miss Lucia E. F. Kimball, 644 W Monroe St., Chicago, U. S. A.

Penal, Charitable, and Reformatory Work—Mrs. J. K. Barney, Providence, R. I., U. S. A.

Fairs and Expositions—Mrs. Josephine R. Nichols. 519 N. Penn St., Indianapolis, Ind., U. S. A.

Peace and International Arbitration—Mrs. Hannah J. Bailey, Winthrop Centre, Me., U. S. A.

Juvenile Work—Miss Anna A. Gordon, Evanston, Ill., U. S. A.

Young Womne's Branch—Mrs. Frances J. Barnes, 146 W. 103. St., New York City., U. S. A.

Promotion Social Purity—Mrs. Josephine E, Butler, Winchester, England.

Work Among Sailors—Miss Agnes Weston, Sailors' Rest, Portsmouth, England.

World's Temperance Mission Work—Mrs. Mary Sparks Wheeler, Phœnixville, Pa., U. S. A.

Work Among Policemen—Miss Catherine Gurney, Christian Policemen's Association, Strand, London, W. C., England.

Saving Banks—Mrs. S. H. Oberholtzer, Norristown, Pa., U. S. A.

Parlor Meetings—Mrs. Bowden, The Friary, Derby England.

Petitions and Treaties—Miss Gwenllian Morgan, Brecon, South Wales, Great Britain.

World's Archives—Miss Helen L Hood, 57 Gordon Square, London, N. W. England.

Evangelistic.—Miss Elizabeth W. Greenwood, 151 Remsen St., Brooklyn, New York, U. S. A.

Associate—Miss Mary E. Green, Honolulu, Hawaiian Islands.

Evangelists—Mrs. Elizabeth Wheeler Andrew and Dr. Kate C. Bushnell, 28 Russel St., Melbourne, Australia: Mrs. J. K. Barnry, Providence, R. I. U. S. A.

Round-the-World Missionaries—Mrs. Mary Clement Leavitt, care Kidder, Peabody & Co., Boston, Mass., U. S. A.; Miss Jessie A. Ackerman, 28 Russell St., Melbourne, Australia; Miss Alice R. Palmer, care S. Stanton, 17 Hampton-Road, London, England: Miss Mary Allen West, car eSho Nemoto, 3 Katohua St., Tokyo, Japan.

◎動植物性營養品試驗成績

東京衞生試驗所技手平野猪之助君の施行せし動植物性營養品の分析成績は左の如し但し魚類は鱗腸骨頭を除き肉のみを試驗したるものなりと云ふ（官報）。

第一　動物性營養品　百分中の成分を示す

品名	水分	蛋白質	脂肪	灰分
アコウ	八一、五二五	一七、一二五	〇、三七五	〇、九七五
帶魚	七一、七六五	一九、八四〇	七、〇六四	一、三三〇
イナダ	七六、七五〇	二〇、八九九	一、一〇一	一、二五〇
鯔	七二、六〇〇	二一、九六八	四、二六七	一、一六五
キンポ	七七、一八五	一八、二五九	三、〇五六	一、五〇〇
牛尾魚	七八、八八五	一九、六五七	〇、三三六	一、一一三
アナゴ	八一、五二〇	一六、七三〇	〇、五九五	一、一六五
海鰻	八〇、〇七五	一七、一四三	一、五七五	一、〇二五
河豚	七九、七七五	一八、八四一	〇、二五九	一、一二五
黃貊魚	七七、三二五	二一、三五三	〇、二九七	一、〇二五
田螺	七五、七六六	一九、一〇二	〇、五四七	四、五八五
西施舎	七九、二三〇	一六、六九〇	二、六二五	一、四五五
貝ノ柱	八〇、三七〇	一八、〇九〇	〇、二二〇	一、三二〇
糠鰕	七七、六八〇	一六、二七八	三、二五七	二、七八七
青花魚	七五、〇〇〇	一六、一〇〇	二、八七〇	六、〇三〇
文鰩魚　鹽藏	六六、三三五	二三、四六六	〇、五三九	九、六六〇
魚鯱　仝	五六、七五〇	二八、七〇九	六、五九一	七、九五〇
鰯　仝	四六、二五〇	三四、一四〇	三、九八五	一五、六二五
鰮魚	六二、六五〇	二三、四四六	五、六七九	八、二二五
田作	一三、六八四	六九、二五一	一一、七五六	五、三〇九
鰕魚尾佃煮	三六、七五〇	三八、八二〇	三、七三〇	二〇、七〇〇
海鼠腸	七二、四九〇	八、八三六	二、六八七	一五、九八七
ハンペン	七七、一六〇	六、六一六	〇、三三〇（無窒素物一三、七四九）	二、一二五

第二　植物性營養品　百分中の成分を示す

品名	水分	含窒素物	脂肪	無窒素越幾斯物	木纖維	灰分
鶉豆	一四、五七〇	一八、九〇〇	一、一六〇	五七、七五〇	六、四六〇	一、一六〇
燕麥	一〇、四〇四	一三、五三七	四、一八〇	六六、九一九	四、一六〇	一、八〇〇
蜀黍	一三、一〇〇	一〇、五〇〇	三、六二〇	六六、三九〇	六、二八〇	〇、一一〇
玉蜀黍	一五、〇五〇	九、四五〇	三、五二四	六六、六五六	三、〇八〇	二、二四〇
薏苡	一三、七四〇	一三、六五〇	五、三八〇	六四、九四〇	三、一七〇	〇、一二〇
麻ノ實	九、九八六	二一、一七五	二四、五六〇	二二、九〇六	一九、三二八	二、〇四五
菊花	八六、六四五	一、九三六	〇、〇三七	八、七九九	二、五四二	〇、〇四二
紫蘇卷唐辛	六四、〇九〇	二、八八七	〇、九七一	二六、六二七	三、四三〇	二、九八五
酢漬蘘荷	八五、九〇〇	〇、九二七	〇、〇七六	七、八五六	〇、三三五	四、九〇四
鹽漬生姜	七五、三三五	〇、七六七	〇、三一九	一三、五八〇	二、〇八九	八、〇〇〇
鹽漬李	八〇、八三五	〇、〇五七	〇、〇六三	五、七九五	二、五一五	一〇、七三五
鹽漬梅	七〇、七三五	〇、〇九九	〇、一五三	八、九四八	一、六一五	一八、四五〇
粕漬白瓜	七二、二一〇	二、六五〇	〇、〇四三	一八、七九六	〇、七〇九	五、五九一
味噌漬大根	六二、〇二〇	六、一四〇	〇、一九〇	一六、五二〇	二、二三〇	一二、九〇〇
醴（軟煉）	六二、〇七〇	三、五〇〇	—	三三、三九二	〇、七五三	〇、二八五
生揚	七八、六六〇	一〇、二八〇	八、二〇〇	二、〇三〇	—	〇、八三〇
貫錢麩	一三、五九〇	二四、八八〇	一、五一〇	五八、五一〇	—	一、五一〇
昆布卷	六七、五二〇	二、六七〇	〇、一八	二四、九二〇	—	四、七二〇

女報

可愛子編

●皇太后宮行啓　皇太后陛下は、去る十四日午前十時御出門南豊島字代々木御料地へ行啓、午後三時十五分、還御あらせられたり。

●皇后陛下行啓　皇后陛下は去る十八日午后一時御出門、慈惠醫院へ行啓、還御の節芝離宮へ御立寄あらせられたり。

●又　去る二十一日午前十一時天皇陛下栃木縣下へ行幸に附き、御奉送として、皇后陛下は御同列上野停車場へ行啓あらせられたり。

●千代に八千代　我が　皇太后陛下の萬づにつけて御心ばえいみじう御情け深うおわしますは、夙に承はりまゐらすなるが、此程の御事とかや、青山御所の御軒に雀の巣へるとありけり、其の雛漸くに生立ちて明暮に巣搔きの音騒がしう聞ゆる折り、或る朝の事になん、いかにしてか其の一つ地に墜て頻りにぴよ〳〵と鳴く、陛下御覽じて、あれ取り上て得させよと仰せて、頓て召して御覽ずれば羽毛も未だよう生え揃はず、黃なる口を開きぶる〳〵と戰へて又頻りに鳴く、誠にいたいけのものなり養ひて取らせよとて、夫れより飯粒の潰たるなど召させて飼ひ立てさせ給へるが、此の兒雀いつしか大きうなりて此ごろは御殿の中を飛まはり、籠より出せども逃げず、御手づから餌を賜はすれば、よう懷き奉りて來りて遊ぶ折ふしは御裳の裾にまつはり御膝の上にまゐりて千代〳〵と鳴く、陛下殊にいとしがらせ給ひて御徒然の折には、千代召せと宣はすとなん承はりぬ、誠に延喜の鷹の例も思ひ出でられて有り難き御事になんと人皆申し侍りける。

●皇女富美宮殿下の御誕辰　十月七日は、第七の皇女富美宮内親王殿下の第三回御誕辰に就き、宮中を初め青山、東宮、高輪の三御所よりは、數々の鮮魚を御贈進相成り、宮內省奉仕の人々は、麻布區市兵衛町なる同宮の邸に參殿したる由。

●閑院宮妃殿下　は去る十三日鎌倉へ赴かせらる。

●小松宮妃賴子殿下　は駿河沼津の別莊に赴かれ居りし處、去る二十一日歸京されたり。

●大日本婦人教育會　にては去る廿二日(第四土曜日)午後一時、內山下町鹿鳴館に於て月次會を開けり、當日の演說者は醫學博士弘田長、野口保興の二氏なりき。

●私立大日本婦人衞生會　は過日總集會を開き、會計の報告、幷に規則の修正、及び役員の改撰を行ひたるが、會長には土方かめ子、副會長には濱尾さく子、幹事には馬渡たま子、村岡久野子、西きよ子、西野えつ子、加藤つれ子、中村はる子、北澤のぶ子當撰し、且つ今回小松若宮御息所を同會の總裁に仰ぎ、會務を擴張し、益會員を募集し、廣く衞生の普及を圖るといふ。

●シカゴ博覽會に日本婦人の事を記せし書を出ささんす　金港堂の出版にて日本婦人の事を記せし書物を、來年シカゴに開かるゝ世界博覽會に出さんとし、凡そ十人程集り合作の由、其著者中には、三宅米吉、下田うた子、菊地熊太郞の諸氏もありとぞ。

●婚儀裝飾の出品　帝國博物館より我國上等社會の結婚に用ふる島臺初め其他一切の飾りものを、世界博覽會へ出品するとと云ふ。

●本多女醫士　芝區新堀町に是迄開業し居たる女醫本多せん子は、先頃其良人本多ドクトルが獨逸國より歸朝し農科大學の教授に任ぜしより、共に同學校の官舍に引移り、去り難き依賴の外は診察せざりしが、今度赤坂區新町三丁目四番地に出張所を設け廣く治療するよし、聞く女醫は明治十四年より成醫會の學生となり、高木兼吉兩國手に就き、慈惠病院にて解剖其他の實地研究をなし、終に醫學全科を卒業し、尋で同病院の助手をなし、最も婦人病(子宮病)小兒科に妙を得たりと。

●春日の局の靈祭　湯島切通し麟祥院の地內にある春日の局は、本年が二百五十年に相應せりとて、去る十五六の三日間祭典を執行し、華族堀田(佐倉藩)稻葉(淀)兩家より代々の寶物を持出して、縱覽せしめたる由。

●小女畫を見て父の病をトす　畫伯〇〇翁が、近時後素の巨擘として聲名世に噴すしき事は人の知る所にて、特約廉價の畧畫とへ半紙版一葉八圓の潤筆なりとぞ、此一事にても其巧手なるを知るべし、然るに翁今度格龍博覽會へ自發出品の額面にとて群鳩の畫をかきかけし に偶々熱病にか ゝりて東京慈惠院へ入りたる處、餘病また起りて數旬の間退院する能はず、門弟のもの痛心一方ならず、然るに翁に孃あり年纔かに十四なるが、孝心いと深くて頻りに父の病を氣支ひ、夫のかきかけられし群鳩の畫を見ては、悄然として涙を浮め、朋輩の娘達に向ひ、父さまの御病氣は漸次にお快き方なれど、此の群鳩の畫未だ悉く足をゑがゝれ給はぬを見れば、何やら辻占惡しく覺えて心もとなき限りと、さめ〳〵と打ち歎くを、聞く人また貰ひ泣きして少女の心を憫れみ、父なる畫伯が病の爲めに筆を執る能はぬ無念を推量して、皆々袖を濕したりとぞ。

●少女自身の差押を願ふ　淺草區三好町五番地篠原惣藏は、去る十七年中我子惣太郞に一萬五千圓程の財產を分ち與へて別家せしめ、孫女(惣太郞の子)おしげといふ十三になるを我家に引取り養育し居しに、惣太郞は何時しか右の財產を亡くしたるより、惣藏に對して折々金圓の調達を申込めど、限りある財產にて惣太郞が限なき望を充す能はざれば、其都度能き樣に斷り居りしが、爰に惣太郞は何故にや、我娘おしげを父惣藏に相談もせず、神田五軒町大關道太郞に遣はす約束を遂げ、道太郞方へ送籍したるにぞ、惣藏の驚愕一方ならず、最愛の孫女を未だ一度も逢つた事なき男に遣はすことならずと、異議を主張し、遂に此程東京地方裁判所へ道太郞に對し復籍請求の訴へを起し、おしげよりは道太郞方へ引取られぬ樣にとて、保護の爲めに我が身躰の假差押を出願したる由、人身の差押へは之れが始めなりと讀賣新聞に見ゆ。

●感ずべき母子　浅草小島町の金物彫刻師、野村虎次郎といふは、舊幕臣にて、元は相當の身分なりしも、維新後商法に手出したる爲め、頓に資本を失ひ、僅に金物彫刻を覺え、神田邊にて、女房おたけ、長男勘市(十二)長女おてる(十)二男兼吉(七)と一家五口、細き烟を絶え〳〵に、其日其日を送りてありしが、先年神田大火に丸焼となり、今の小島町に引き移り、夫婦必至となりて、稼ぎしかば、漸く三人の子供を、小學校に入るゝ程になりけり、さるに本月七日、女房おたけ、急病にて死せしかば、虎次郎は、片腕取られたる心地にて、落胆やる方なきも、かくてあるべきにあられば、親戚知人に手傳はれ、亡き跡取り片付けんとて、女房の手函を開きしに、新聞紙にてくるみたるものあり、何心なく取り上げ見れば、表に「大事の時に用ゆべし、」と女房の手蹟もて記して、中に一圓紙幣にて、三十枚計りありければ、居合はせたる人々、皆な其平生の心掛の貝きに感ぜぬものはなかりき、又茲に尤不思儀なるは、長女のおてるなり、常に七時過ぎにあらざれば、起き出でざりしも、女房の死せし翌朝より、未明に起き出で、飯を炊ぎ、茶を沸かしなどして、取り賄ふさまは、年長けたるものにも劣らず、近所の人々傳へ〳〵て、愈おたけのすぐれたりし女なりしを、ほめたゝへぬはなしとぞ、嗚呼、眞に此母にして此子あり、人の妻たり人の母たるもの、いかで此心なくてよからめや。(女鑑)

●山梨廢娼會及び禁酒會　山梨廢娼義會は此程甲府市境町の同事務所に幹事會を開き、本年運動の方注を定めたるよし、又山梨禁酒會も入會者追々増加し、同市の月次會等尤も盛なる景況なり、去る十五日は相生町舞鶴館に於て總會を開き、尚同會擴張の方法を討議せりといふ。

●神戸英和女學校海軍士官を招待す　神戸市諏訪山下の英和女學校生徒は、小野濱に碇泊中の帝國軍艦筑波艦を觀覧せしが、同生徒は深く艦長以下の待遇に感じ、去る七日校長よりの謝狀と共に生徒よりも左の如き謝狀兼招待狀を送りたり、

拜啓昨日ハ多人數罷出候處御多忙中ニモ拘ラズ御厚情ニ委シク貴艦御示シ被下御蔭ニテ一同大ニ益ヲ得且愉快ヲ覺ヘ御親切ノ程深ク喜ビ幾重ニモ難有御禮申上候扨何ノ御擧モ出來不申候ヘ共粗茶差上度候間明晩七時頃ヨリ皆樣御同道ニテ弊校ヘ御來駕被下候ハヾ幸ヒ甚ダシク候先ハ御禮旁御伺マデ草々頓首

十月七日　生徒　拜

筑波艦長　黒岡帶刀樣　閣下

右に付黒岡艦長以下士官諸氏は、九日夜同校に赴き、茶菓の饗を受けたるよし。

●福井縣高等女學校第一回卒業證書授與式　去る七日午后二時より同校第一回卒業證書授與式、并に同校舍工事落成式を舉行せり、卒業生は本年三月の定期試驗に於て卒業し、爾來六ヶ月間尋常師範學校附屬小學校に於て實地授業を爲し、今度右實地授業を終了したるものにて、其人名は

(福井市毛矢町)德山シカ子(仝寶永上町)橋本ヤス子(仝日ノ出下町)小林サダ子(仝佐佳枝下町)小林シゲ子(吉田郡殿下村)東村ミドリ子(今立郡鯖江上小路)齋藤ナチ子(福井市松ヶ枝下町)大村ハギノ子

の七名にして、證書受領の上は何れも各小學校の訓導に任ぜらるゝ筈なりと。

●感心な婦人　作州眞嶋郡勝山村中川町に士族渡邊アイ子てふ婦人有り、未だ三十にも足らぬ身なるが、稚き時に父に死別れ、病床に在る母親に懇ろに孝養を盡し、其日〳〵の暮向きには可なり差支もなく送りしが、近頃神戸の者なりとて、至極活潑にして氣質も滿更悪い者でもない女なるが、同中川町の竹亭とか云へる一寸とした旅籠屋風の所に身を賣て勤して居たを、此のアイ子が見て、さて〳〵氣の毒な者、同人間に生れても卑ひ勤をする程哀れはなし、何卒眞人間にして遣ん者と、種々心配して十圓餘の金子を調へ、其女を身受けして我が家に連れ歸り、末々は力を合せて働かんと、共に勇み居ると稀有の婦人では有る。と岡山日報に見ゆ。

●門司に貸席設置の計畫　山口縣門司港には貸席設置の件に付て兼て置娼非置娼論の噴々たりし處なるが、過日仝村々會の開設ありし際福原丹治外二名より置娼の件に付仝會の承諾を請求せり、然るに仝會議員に於ても十分議論の末、一利一害は社會の通患なれば亦已むを得ざるに依り承諾することに一決し、設置の場所及び場所に付て七年間位の期限を以て設置し、然して追々繁榮に赴き市區の整頓する曉に至らば、亦々移轉せしむべき筈にして、右場所等に付委員を撰定し調査中なり、聞く處に依れば榮町裏近邊にして字(カシアゲ)に略ぼ定まりし由。と馬關毎日新聞に出づ、歎息慷慨の至に堪へざる也。

●九十五才の老婆白布を献ず　愛媛縣下浮穴郡拜志村藤田いはの母とよは今年九十五才の高齢なるが身躰壯健去頃より綿拵へを始め紡績より機織まで悉く自身に整へ他人の手を假らずして白木綿一丈二尺を製し之を折半して一を宮内省、一を舊松山藩主に献上し宮内省よりは此程賞狀を下附せられたりと。

●佐賀婦人矯風會の擴張會　佐賀婦人矯風會は、數年以前夙に開設され會運日月に昇り榮へて會員の數も彌増したれば、遂に其組織を改めて學校となし、之を實習女學校と名け、善美の果を結び、校運日を逐ふて隆盛に赴き居ることは、人の能く知る所也、而て婦人矯會は會員年長の婦人令孃のみを以て組織し、全く實習女學校と分離し別に同會を立て來りしが、今回同會關係の婦人達には大ひに奮勵して、益矯會を盛にせんことを企圖し、更に趣意書を草し規則を改正擴張して、年齡十八歳以上の婦人は皆入會を許すこととなし、入會を希望する向も頗る多かりしかば、乃ち去る九日を以て其擴張第一會を市内協和館樓上に擧げたり、而して實習女學校にては矯會とは淺からぬ因緣あるを以て、同校の教員生徒は其開會を祝する爲め、校長柳原はじめ孃始め出會して、音曲の合奏にて唱歌を奏せられぬ、當日矯會員婦人の參會者百餘名の多きに及び、又同會へ關係ある男子數名も來會せり、演説あり、合奏唱歌あり、近來稀なる盛會なりしといふ。

●九州の女學　今や九州は女學汪盛の時代に達せんとす、長崎には活水女學校あり、梅香崎女學校あり、福岡には福岡英和女學校あり、熊本には熊本女學校あり、尚絅女學あり、文學精舍女學部あり、鹿兒島には鹿兒島英和女學校あり、淑女黌あり、而して目今亦熊本に一個の女學校起らんとす、吾人は九州女學校の振興するを見て祝喜の至りに堪へず、唯だ願ふ所は眞正に女子を敎育して實用實際

に適し、兼て有德の婦人の此間より起らんと願ふて已まざるなり。

●熊本女學校　熊本女學校は去る九月を以て開校せり、同校は創立以來五星霜の短日月を經たるに過ぎずと雖も、今や九州女學校中に於ける希望ある地位に達せり、其將來に於て愈々益々發達せんとは吾人の信じて疑はざる所なり。（以上二件、九州文學）。

●遊廓設置願の不認可　大分縣豐前中津に遊廓を設置せんとせし事ありて種々に計畫し、基督教徒の青年が之に反對して運動せし事を過日の雜誌に掲載せしが、同縣知事岩崎氏は其設置願ひを認可せず、願書は却下せられたりとぞ、亦快なる哉。

●三重縣通信

◎トリンナ孃　津市岩田町なる日本基督教會所にては、事務を擴張せしにつき、伊賀上野町より、ユ、エム、トリンナ孃毎月一週間來りて働かるゝ由。

◎女教師　こたび小學令の實施について、準訓導に任ぜられし人々は養正高等小學校にて、

玉置きみ子　岡本　熊子　佐津つう子

養正尋常小學校にては、

石田さだ子　小林さし子　河野まさ子

脩成尋常小學校にては、

上村きく子

◎松坂佛教婦人會　松坂佛教婦人會は、名古屋佛教婦人會機關雜誌「道の友」の編輯人なる萩倉紘道氏を招き、さる八日松坂正圓寺にて講話をきゝたるよし。

◎溫故堂産婆學校　津市立町なる同校は、こたび産婆生徒三十名、内五名貸費、看護婦生徒五名、都合三十五名を募集中。

◎三重女學校　三重女學校は、この程經費不足のため、教員の任免を行ひぬ、即ち教師中矢四郎氏は中學に轉じ、中學校教師馬淵太平氏外一二名の人々傍ら教授し居らるゝよし。

●京都通信

◎同志社女學校　同女學校は今年新に二十餘人の新入生を迎へたり、又た神學師範文學の三專門科も、此度新に設けたるのみなるに拘らず、何れも數人の入學生ありしかば、都合好く開校せられたる由、又前教師中には色々都合に因りて辭職せられたる人もあれば、其代りとしては新に雲峯生磯貝由太郎氏、海老名彈正氏夫人美也子氏、及高等女學校出身の秋山某女を聘するとさなりと云ふ。

●福井通信

◎高等女學校の卒業式　縣立高等女學校は最初は師範學校女子部なりしに、中頃中學校女子部となり、本年度より更に獨立して高等女學校となし、縣會の決議を以て其校舍を營築せしに、此程落成せしが、去る七日新校に於て其落成式を兼れ、第一回卒業證書授與式を擧行せり、同日午后二時より其式を始め、知事代理横尾書記官告辭を朗讀し、卒業生總代德山詩歌子其答詞を讀み、生徒總代三年生上田左穗子祝辭を朗讀したり、卒業生は左の七氏にして、何れも縣下各小學校教員に聘用せられたり。

德山詩歌子　小林さだ子　橋本やす子
小林小鬟子　東林　翠子　齋藤なほ子
大村萩野子

◎女生徒募集　本縣高等女學校生徒第一年生九名、第二年生十二名欠員に付、臨時募集せり。

◎廢娼再燃　本年の通常縣會にて娼妓全廢の建議を通過せしめんとて、縣會議員中彼此盡力し居れる者あり、通信員も偏に其經過を望むなり。

●廣島通信

◎英和女學校は　燒失以後内外兄弟姉妹が神に捧げたる至誠至愛の眞心と、熱淚熱禱の義金に依りて、授業室より寄宿舍附屬幼稚園に至るまで、以前の校舍よりも一層高大なる建物となれり、而して本月三十日を以て開校式を施行す、内外紳士貴女集るもの夥多、最初に合唱讃美歌、次に組合教會牧師山中百君の祈禱を以て始まり、美以美教會傳道師田中義弘君の聖書朗讀、君が代一同起立合唱、尾藤德義君の歡迎辭、幼年生金剛石唱歌、松浦豐吉君の勅語奉讀、生徒諸氏の御國の旗唱歌、幼稚園の開誘遊戯、英語讃美、神戸關西學院教員吉岡義國君の勸話、來賓諸君の祝詞、本校生徒錦織ゆき子姉の祝文、エンピー、ゲインス氏の答詞、日本基督教會教師留川一路君の祝禱を以て終る。

◎英和女學校今後の授業法　幼稚科は以前の如く甲賀藤子姉、黑田姉、外に二三の助教師を以て稚兒を擔當し、此の科を卒業したる者は直に本校小學科に入らしむ、小學科は當時名古ゆた姉假擔當、小學科を卒へたる者にして直に本科に入らしむ、本科は尾藤德義君、粟屋七郎君、ゲニース女教師、ストライダー女教師、松浦豐吉君等を以て擔當す、而して此かる順序を設けたる所以のものは、蓋し幼稚科を卒業して官立小學に入りて基督主義の教育をして放棄せざらしめんが爲めなり、其組織既に精密に至る、亦た將來の隆盛を期するに足る。

◎文學會　同校に起る、文學は婦人の得處、家政に於ける快樂亦た少なからざるべし、今や女生徒の婦人會あり、亦た文學會起る、基督教女子教育の光輝既に此に出づ、廣島婦人教育の中心此校舍に集らずと謂ふべからず。

◎組合教會の婦人會　同會も亦起りぬ、毛糸編物等の賣上高を以て其會を維持す、今や創業以來三十餘日、其規摸微々、されど至誠神に祈りて怠たらずんば必ず其刈入を期するに足る、吾人は唯此の佛教の隆盛なる土地にかて、淫婦の夥數土地

に於て、世の濁波汚氣を改良する切實なる基督婦人矯風會の勃興せざるを怪むのみ。

◎予る織物事業起る　日本基督教會員竹內、八幡、永井、三好の四氏集合、資本を以て辛くも此事業を起す、商業は固より榮利主義、然れども本社が他の商業家と其目的を異にする所以は、實に基督教徒にして其生活に苦しむものを救はんが爲めなり、其目的基督教より出でたる眞愛慈善、廣島實業社會に基督教主義を入るるものは夫れ此の事業ならん乎、吾人は國家の爲めに之を祝し、併せて役員諸君の健康を訴る。

◎廣島一般の婦人社會　茶、花、琴、三味線流行して、實業家の令孃、智育德育を忽にするもの丶如し、佛教反動の勢力を引起して、眞理教會、佛教永續會、佛教靑年會、佛教婦人會、愛國護法靑少協會起る、僧侶學校の生徒洋服を着て運動會を催して、至る所に演說會を開く、佛教永續會本市に演說會を開きて基督教に非貸家を唱へ、實業社會の婦人先祖の難有を說きて復古を唱ゆるもの多し、教育家漫に愛國を唱へて基督信者たる小學教員を驅る。

◎吉原摸擬の遊廓　は新築落成せり、百餘の藝妓此に群がる、市民之れを見て不可を唱ふるものなし、却て其結構を見物するもの隊をなす、嗚呼此の國を如何にせんとする乎。

●高知通信

◎高知英和學校　に於ては、從來五箇年の修業年限なりしが、今般學年學科程度に大に改良を加へ、豫科一年本科三年と爲し、別に專修科を設け、卒業後英文學、國文學、漢文學の研究を許すことと爲せり、又た校名を土佐女學校と改稱せり、從來同校教員たりし篠原方愛氏は傳道專務の爲め、濱田正稻氏は同志社政法學校へ入學の爲めに辭職せられたるが故、今般同志社普通學校卒業生栢井園氏、彥根女學校教員たりし土田常女史を英學及び普通學科教員に、藤田貞女史を家政、裁縫、手藝科の教員に招聘せり。

●盛岡通信　（十月十六日發）

◎ウエスト孃の來盛　去る五日當地に來着され連合祈禱會に臨まれ、一席の感話あり、翌日婦人祈禱會にて又同孃の勸話、津田氏の祈禱あり、午后六時よりは禁酒演說會を開き、聽衆無慮六百名計、市川激、津田仙の兩氏幷ウエスト孃（通譯者小谷野敬三氏）の演說あり、當地に稀れなる盛會なりし。

●上州通信

◎上毛基督信徒婦人會　同會は每年春秋二期、上毛各地をまわり番に開會し來りしが、今年秋期會は、西群馬郡高崎町基督教會堂に於て、去る十五日午前十時より開會せり、今其の概況を記さんに、時限十時を報ずると共に伊藤せつ姉の司會にて、感話、祈禱會をひらき、牛田みか子、田中かくじ子、小板橋いち子、湯淺もと子、辻しん子、ミス、パシリー諸姉の感話及其他諸姉の祈禱ありて一先づ此會を閉し、來會者一同午飯を喫し、午後は一時半より松本いと子の司會にて、演說會を開き、婦人の外傍聽を禁じ、グリーン夫人、ウエスト孃、及び星野光多氏の演說ありたり、夜はまた自由親睦會を催されし由、同日來會せられしは前橋、安中、原市、橫川、富岡、高崎等各地の婦人凡そ百五十名にして、盛なる集會なりし。

◎ウエスト孃　過般本邦に來遊せられしウエスト孃は、第一着に北海道に遊說せられ、それより上京の途、去る十四日を以て、前橋に來着せられ、翌十五日には前頃にも見ゆる如く高崎に於ける上毛基督教徒婦人會に臨み、禁酒に關する演說せられ、即日前橋に歸り、十六日の安息日には、前橋教會に於て組合、監督兩教會聯合の日曜學校生徒の爲めに禁酒上の談話をなし、夜は同會堂にて開らきし矯風大演說會に於て、美山貫一氏の通辨を以て万國婦人禁酒會の事業及現況につきて述べられ、聽衆無慮三百余名（內には裁判官其他仝地の上流社會の人々もありし由）靜肅に謹聽したり、仝孃は十七日午前八時五十分、前橋發の滊車にて幾多の有志者に送られ上京の途に上りたり、（因に云ふ此度ウエスト孃の來遊により、前橋教會の婦人達は仝孃の携へられし万國政府に向て家庭保護の請願に同意し、その爲めに大に力を盡さん事に熱心なる由）。

●基督教と亞弗利加　亞弗利加の西海岸に沿ふ地方は、福音書の光り煌々と輝き、現に二百の教會、三万五千の改宗者、十万の熱心なる信徒、二百七十五の小學校、三万人の生徒ありと云ふ。

●婦人帽子の賣高　近頃倫敦に於て一周間に賣たる婦人帽子は十万箇なりし由。

●ビクトリヤ女皇　は久しき間、熱心に印度語を學び給ひ、千八百八十八年以來はムンシ、ハフヰル、アブダルカリムといふ回教の一信徒に師事し給ふとなるが、彼れも能く其職務を盡し、女皇も頗る其才を嘉し給ふといふ。

●脫を補ふ

女學雜誌第三百二十八號（乙の卷）小說「朝顏」一三三五頁、下段十三行、「或はわが父母と花を見になど伴ひ行く」の次ぎ、左の文句を脫す。

かるゝ時彼は付髷（つけまげ）高く結び立てゝはでなる模樣を染め出したる長き振りの袂の床にまで觸るゝばかりに顏うるはしく化粧（けはひ）ひたる——我は恰も之に似たる人を繪にて見しと思ひぬ——その時彼はそゞろに高ぶるやうにて我に物言はぬが口惜しかりき我をないがしろにするやうに思はれぬ。さはいへども彼に憂き事なごある時は我に向ひて語り出でゝ慰さめられんとするにぞ斯る罪許さるゝのみならで我ももろともに之をなげきける。

これより「一日彼がカナリヤの雌……………云々」の文句に續く。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

斎勘子編

孤兒の友の仕事

其一　（第三百〇九號再載）

（一）孤兒院は、天父の祝福の下に、多く慈善家博愛者の寄附にて成立ものにして、決して金錢物品之を強て人に求めざるの精神なるとを知る、然れども喜んで義捐する人の便宜の爲に孤兒の友は其取次をなさんとす。

（二）東京横濱市内に、金錢物品を喜捨せんとせらるゝ方にして遞送の煩勞なる爲、其志を果さゝる向は孤兒の友へ通知あれ、然らば孤兒の友は、寄附者指定の孤兒院へ贈り屆くべし。

（三）遠方の孤兒院へ多量の物品を寄贈する事は、多額の運賃を要するが故孤兒の友は悉とく之を辨じ得ざるともあれど、我準備金の有らん限は之を辨ぜんとす

其二　（第三百十一號再載）

（一）各孤兒院が、寄附金錢物品の報告等の依頼に應じ、毎月一回づゝ孤兒の友欄内に於て之を報告し、又緊急の通知報告等の機關に當つべし。

（二）各孤兒院の教育用品買入、及び農事の問答、種子の調達等は、孤兒の友に於て其勞を執り、其他諸般の用事を出來得べき丈け之を辨ずべし。

（三）各孤兒の手工職業及び原料品の購求製作品販賣等を廣く質議するの便宜は、孤兒の友欄内に於て爲し得らるべし。

博愛社孤兒院の近狀

播州博愛社々長小橋勝之助君、本年五月より北海道に漫遊の途路、偶々兵庫岡山兩縣に水災の事ありてより、博愛社も亦耕田三分の一は水害を崇り、多少歳入に影響せり、故に歸途を急がれ終に去月下旬歸鄕せられぬ、君は歸社后社員と心力を協せて、二宮尊德先生の偉業を鑑み若くは魯西亞のトルキ伯を考へ、專ら自活獨立の法を研究し彌々半酪農を以て、博愛社が將來の希望を北海道の曠野に大成せんとす、且つ同社は播磨の山間にありて、人々の注意も薄く隨て記臆も亦疎なり、希ば幾多の兄姉諸君同情を寄せ、同社の爲に祈禱あらんとを切望す。

本歳初夏以來各孤兒院共、衞生上、經濟上、頻々困難の界に入り、此際能く忍びて天啓を拜待せり。今や各孤兒院より續々喜びの音れに接す、吾人歡喜堪へず之を深く感謝すると同時に、各孤兒院が尚ほ一層警戒して、着實徐々に進歩せられんとを熱望す。今又北海道孤兒院より左の報道に接したれば玆に掲載して同情の兄姉諸君に特報す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

北海孤兒院特報

天恩により本院は幸に我敬愛する四方の愛兄姉に一の感謝すべき報道を爲すの運に至りたり、其は今般洞爺湖畔貸下願地六百町歩の樹林諸君と共に求めし祈の聽かれて許可せられたるとなり、是より本院の事業漸く多忙ならんとす、幸に今春已來已に開拓のため一切を棄てゝ献身せし兄弟六名を得て孤兒と共に農牧の業を務めたり、弟は懇求熱禱し尙數十名の同志を得、或は敎育に從事し或は開拓に從事し以て神の聖旨を成さんとす、果して其開拓を成功し得ば常に千有餘名の孤兒を養ふも尙餘裕あるべし、愛兄姉諸君よ之がために只一回の祈りを捧くるも亦必ず其報を失はず、況や日夜之が爲に祈るの諸君に於てをや、弟は是等の兄姉が身は本院にあらずと雖とも同じく神の聖役に召されたる人なるを信ぜり、是を以て此報道をなす、願ば諸君と共に益々祈りて聊か孤兒の不幸を慰め以て、神榮を顯彰せんとをアーメン。

明治廿五年十月

北海道膽振國有珠郡東紋鼈村北海道孤兒院主任

林　竹　太　郎　敬白

九州孤兒院の近狀

九州孤兒院は本月より、同地の紡績會社の專業を引請、維持上も頗る好都合と成れり。又目下日向地方の荒田を買入れ、将に明春を期し同地に移住せられんとの計畫あり、吾人亦此擧を賛すると同時に、敢て一言す開拓は難中の難事なり、事急速に出で疎算に流れ、或は一時人爲的の進歩に馳せるが如きとなく着々歩を進め、祝福の下に榮へ行かんとを切に祈る。

因に記す同院は今回左の所に移轉せられぬ。

福岡縣三池郡銀水村九州孤兒院主任

宇　佐　穩　來　彦

那須野原曉星園

同園主任者本郷定治郎君は此程上京せられぬ、同園の開墾事業も着々進歩しつゝあり、自今有志者に謀り明年より一層企圖を擴め、專ら貧兒敎育に力を盡し、有望の者は信徒の有志者に託し、各自其人財によりて適當の職業に就かしめ、實業を傳習せしむと云ふ。目下同園の現在員は五十七名なりき。

二宮先生小田原侯の命を奉じ野州櫻町の衰廢を復興なさんとするに當り諭て曰、仁を施し無頼の人情を改め專土地の貴き所以を敎へ力を田圃に盡さしむるにあり、公必ず一金も下し玉ふ勿れ、公曰其道如何、對て曰、亦荒蕪を開くに荒蕪の力を以し衰貧を救ふに衰貧の力を以てす、公曰、荒蕪の力を以てする事如何、對て曰、荒田一段を開き其產米一石有んに五斗を以て食となし五斗を以て來年の開田料となし、此の如くして年々止ざれば他の財を用ずして何億万の荒蕪をも開き盡すべし、吾神州開闢以來幾億萬の開田其始異國の金銀を借りて起したるには非ずして、必ず一鍬よりして此の如く開けたるなり。

先生又曰、昔は大禹の有苗を征するに武略智計を以てせずして唯々至誠之を感ず、予極貧の家に生れ孤となりて一家の廢亡を興し父母祖先の靈を安せんと欲し、日となく夜となく心力を勞し、其始一苞の米を種として遂に廢家を擧け祖先の田圃を復し聊追孝の道を立るに至れり。

女學生第廿八號 十月二十一日發兌

永嘉先生の聲 は天地子の筆にして、短評の內、深刻博大の意を含む。之を讀んで躍然快を呼ぶ者あるべし。

時の感 は年少批評家禿木子の手に成る、其 **和歌と發句** は國民之友に出し愛山生が平民的短句の發達を遠慮なく批評し **詩人バイロン卿** は快筆を以て簡明に卿の傳を記せり其他二千六百年前の支那、最近文界、夏小袖の評、何れも簡潔明快なり。

文欄 女學生諸子の文は、時恰も悲秋に際し、其多感多情の筆は、發して悲哀の調をなす、尤も見るべきものあり。

家內の修養 は靈眼を以て家政を觀察講述す、言ふ所、頗る則となすべく、教となすべし。

中秋雜感 は(十六)あり、山月子の記する所、愛と誠と涙と血と全篇に横流す、世間必ず同感同情の友あるを信ず。

南洋の嶋影 には小笠原島の奇觀を記す、是れ畜耡子實地探撿の筆

其他何れも清秀にして且愉快也 **本號の紙數** は二頁を增加せり

◎女學生毎月一回發兌◎一冊價四錢◎郵稅五厘◎

東京下六番町 **女學雜誌社女學生部**

透谷子著

蓬萊曲

幽玄を旨としたる戲曲

場を蓬萊山に假り心を死したる戀人に寄せて大に天地の美妙を說き人間の醜惡を罵る、一篇の結搆全く幽玄を旨とし、或は神、或は鬼、或は生、或は死、或は龍、或は月、是等の物を馳驅して縱横に深鬱なる悲戀を述作す。題して蓬萊曲といふと雖實は地獄と天堂の間に蹈迷ひたる一想士の感慨を述たる悲壯曲にして、日本評論がドラマチック、ポエトリーの嚆矢なりと評したるもの即ち是なり。

正價十六錢の所を此度半減して八錢とし以て女學雜誌購讀者の愛顧に酬ふ

(但し別に郵便二錢を申受)

依托賣捌元 **女學雜誌社**

女學雜誌社出版書

子供のはなし 全

定價金五錢
郵稅金貳錢

目次

第壹回 田舍音樂師
第貳回 鼂の君
第三回 熊と旅人
第四回 風と日の喧嘩
第五回 ハイ〳〵トタヾイマ
第六回 カンとクッドの話
第七回 王にも勝てる人々
第八回 母の愛
第九回 柔順なる娘
第十回 英雄の所業

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

護教

躰面一新して活氣百倍す、請ふ之を本月十五日發行の第六十七號に徵し去れ蓋し思半に過ぎん全紙分て十欄を設く

「説敎」は平易あり、福音的なり、毎聖日に講壇より落つるの聲は、反響して本欄に應ず、敎會に出席すること能はざる兄姉と雖も之を讀まば遺憾なからん

「摘要」「評論之評」論及び「社説」舊に依つて眞率なり眞截なり奇警なり、斬新なり、自ら是れ本誌の特色

「公報」は新に設けたるもの各敎會の公報一目燎然

「通信」は更に益々其の數を加ふ、正確にして着實、詳細にして親切、何人も之を見て喜ばざるなし

「敎勢一斑」は宗敎社會緊要の時事なり莊重なる批評眼を以て現時日本の敎勢を洞觀す特に各敎會敎役者の人物を品藻して、大に後進有爲の士を紹介す、公直なり、嚴正なり、明快なり、座ながら宗敎界將來の趨勢を揣摩するに足る、宗敎に關係ある人々のみならず經世經國の志ある者、必ず一瞥せざるべからず

「特別寄書」は基督敎會の有力者に請ひ、其の秀拔傑特の論説を掲ぐ、「寄書」亦た卓出超絶精神あり氣魄あり、

「家庭及少年」は何人にも愉快に讀まれ、何人にも利益あり、殊に將來の新國民に向つて、誘掖慫慂を與へんと欲す、故に其の史談は雄壯なり、其の小話は簡潔、其の家政家事に關する細大の忠言は實際にして有益なり、又た時としては

「王女會紀事」を載す、巾幗の一隊が如何に働きつゝあるかは請ふ本欄に就て看よ、

「詩歌」は高尙典雅、一唱一吟、敬虔の念生じ淸新の氣、胸中に滿つ、

要するに『護敎』は斯の如く長大足の進歩をなし斯の如く紙面の完整をなすに至れり、是れ偏に讀者諸君の眷顧に依る、若し夫れ一躰に平民的にして誠愨なるは世上自ら定評あり、江湖の諸彥、請ふ刮目一番せよ

東京京橋區竹川町九番地

護教社

護敎定價表

部數	本紙二葉八頁	前金	郵税共
一部		金二錢五厘	金三錢
三ヶ月	十三部	金三十一錢	金三十五錢
半ヶ年	二十六部	金五十八錢	金六十六錢
一ヶ年	五十二部	金一圓十錢	金一圓三十錢

廣告料（五號文字二十二字詰）

	一回限	二回以上	五回以上
一行以上	金六錢	金五錢五厘	金五錢
十一行以上	金五錢五厘	金五厘	金四錢五厘
廿一行以上	金五錢	金四錢五	金四錢

鈴木弘恭大人著

再版 増補

文法口授

一名和文獨案内（半紙判日本綴）

特別賣價 金拾二錢 郵便税 金二錢

目録

（一）文と云ものゝ譯
（二）章句段節の譯
（三）文を作るは容易なる譯
（四）多く文を作るを善とする譯
（五）文を作る工夫の事
（六）草稿の譯幷に書方
（七）文を練磨する事
（八）文を作るに病癖ある事
（九）佳篇を作る法
（十）文を培養する法
（十一）種々の文例

東京麴町區下六番町

女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

平塚定二郎先生講述

獨逸文法階梯說明

正價五十五錢
郵稅六錢

方今獨逸學ノ我邦ニ駸々乎ト〆益旺盛ニナルハ獨逸學ノ我國ノ事物ニ適當スルヿ多クシテ學理ノ明確ナルカ故ナリ然レ𪜈殊ニ獨逸文法ハ泰西諸國ノ文法中最モ至難ナル者ニシテ初步ノ困難ナルハ言ヲ俟タス故ニ學者往々細密ニ通曉スルニ困ム在來ノ文法書夥多アリト雖モ大概皆ナ直譯タルニ過キズ本書ハ本ト自著ノ獨逸協會出版ニ係ル獨逸文法階梯ノ說明ニシテ自家ノ生徒ニ教授スルノ際每ニ之ヲ筆記シ歲月荏苒積テ一卷ト爲セシモノナレハ頗ル懇篤周到煩雜ニ涉ラス所謂簡ニシテ明ナリ況ンヤ其解說ハ悉ク直譯ヲ載セ邦語ヲ以テ意義ヲ說明シタルモノナレハ初學者ノ綴字ニ熟セサルノ徒モ尙ホ之ヲ解スルヿヲ得ヘシ殊ニ晚學日子ノ餘裕ナキ者ノ如キハ斯書ニ就テ學ヘハ殆ント先生ト親炙スルニ異ナラス實ニ文法ヲ學フノ便益未タ此書ノ右ニ出ツル者アラス

本多錦吉郎先生著

畫學類纂

全六冊

- ●第一編　禮氏繪事辨　上　定價十三錢　郵稅二錢
- ●第二編　仝　　下　定價十錢　郵稅二錢
- ●第三編　油繪山水訣　定價十錢　郵稅二錢
- ●第四編　人躰解剖篇　定價十錢　郵稅二錢
- ●第五編　繪事三要　定價十錢　郵稅二錢
- ●第六編　形像原則　定價十錢　郵稅二錢

東京神田區雉子町
電話百四十八番
團々社發行

文談集

十月八日發賣

- 新日本の詩人……德富蘇峯君
- 四十年前書生の狀態……依田學海君
- 本箱退治……幸田露伴君
- 美術と教育との關係……內田遠湖君
- 淨瑠璃の話……饗庭篁村君
- 社會の罪……森田思軒君
- 大俗旅行……石橋忍月君
- 戲曲の著作に就て……宮崎湖處子君
- 文學者と結婚……縱　横　君
- 桃花扇に就て……森　槐南君
- 文學界の瑕瑾……內田遠湖君
- 文章の秘訣……福地櫻痴君

（百四十頁）
定價一部　金貳拾錢　郵稅

發行所　東京市神田區猿樂町二丁目　青年文學社

村木經策君著

家政要旨

正價金五錢
郵稅金二錢

本書は明治女學校が「サンマー、スクール」を鎌倉に開きたる際、「家政學を、生徒諸孃等に講述せしを筆記したるものにして他日幸福なる「ホーム」を作るの時に至りて益する所なくんばあらず因て其益する所一部少數の人に限るを憾み之を世上一般の姉妹諸孃に擴布せんと欲して出版を企てたるものなり。

東京麹町區下六番町
女學雜誌社

再版

巖本善治妻譯

小公子

（リツトル。ロード。フォントルロイ）

小供のよみ本

（早稻田文學第四號）

坪内雄藏君批評

原書の精神は無邪氣なる小公子を主人に利己にのみ傾ける老貴族を副主公にして「無邪氣」の周圍に及ぼせる感化並に周圍の「無邪氣」に及ぼせる影響を寫さんと力めたるものゝ如し小説としての價値如何は譯書に就きて論ずべきにあらず只一言すべきは斯く純潔無垢の良小説を紹介したるは女學雜社平素の主義よりいふも誠に能く撰みたりといふべし譯文は誠に流暢平易なれども其中に譯者が深切なる苦心の跡見えたり就中長幼貴賤の言語をば別たんとて又は文情の調和をはからんとて「キツト」「大したもの」「鼻が高い」「目がない」等の俗語を用ひたるが如きは殊に全力を灑ぎたりと見えていとめでたし行文の中に餘り多く「御」の字を用ひたるが少しく耳だてど咎むべき程にはあらず「入にいひ〳〵しまた」「しつかり歩いてゐました」など言葉を重ねたるはおのづから優しき女教師が幼童に敎ふる時の風に似たり何れも譯者の婦人たるを證してなか〳〵にゆかし」兎にも當今外國美文學輸入の必要あるに際し斯く原文の精神と外形とを寫し出さんとつとめし飜譯の見はれしは文學のため賀すべき事なり。

定價金三拾八錢　郵稅金八錢

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

横山雅男君著

婚姻論

目次

第壹章　總論
第二章　婚姻の定則
第三章　婚姻は人類の天性
第四章　婚姻の効力
第五章　婚姻は社會の盛衰によりて增減す
第六章　早婚上
第七章　早婚中
第八章　早婚下
第九章　晩婚
第十章　私婚上
十一章　私婚下
十二章　血族婚上
十三章　血族婚下
十四章　濫婚上
十五章　濫婚下
十六章　離婚上
十七章　離婚中
十八章　離婚下
十九章　正婚
二十章　結婚年齡
廿一章　結婚年齡の差
廿二章　男女共諸法上
廿三章　男女共諸法中
廿四章　男女共諸法下
廿五章　男女互に撰ふ事
廿六章　結婚の境界
廿七章　雜婚
廿八章　結論

目次終

洋綴中本　二百三拾九頁
特別賣價　金拾六錢
郵便稅　金四錢

東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵稅共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとす。

全部十五章

明治女學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何をか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
女妻論……六十四
母學に反對する者の冒論……八十四
日本女學從本編纂……九十二
女禮と躰操……百
上　躰操……百
下　女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君内助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百○七

明治女學校出版
女學雜誌社發賣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

船越鼎太郎君著

産婦小兒 攝生法

正價 金拾錢
郵税 金貳錢

目次

第壹章 月經
第貳章 姙娠したるを知る法
第三章 出産期日を知る法
第四章 姙娠中の攝生法
第五章 分娩期中の攝生法
第六章 産後の攝生法
第七章 初産兒の所置
第八章 哺乳期中の攝生法
第九章 生母の乳汁を用ずして乳兒養育法

東京市麹町區下六番町
女學雜誌社

轉居

麹町區下六番町六番地明治女學校内
右在寓土曜日午后ヨリ水曜日午后迄

迎接日

毎火曜日午后三時ヨリ

退養

水曜日夜ヨリ土曜日午前迄ハ王子ニ退養シ事務上ノ來訪ヲ謝絶シ且ツ書信ヲ受ズ命用ノ入ハ下六番町ノ方ヘ土日月火水五日ノ内ニ御申越ヲ請フ

巖本善治

鈴木弘恭大人講述　附録小倉てびき

第四版 百人一首講義

御高評を得たる百人一首第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行す。

正價 金廿八錢
郵税 四錢

東京下六番町
女學雜誌社

女學雜誌代價

○白赤双方合せ講讀の分

十冊	前金	五十八錢	府外	六拾三錢
廿六冊（半年）	同	一圓四十三錢	同	一圓五十六錢
五十二冊（一年）	同	二圓六十錢	同	二圓八十六錢

○白赤の内一方講讀の分

六冊	前金	三拾五錢	府外	三十八錢
十三冊（半年）	同	七拾三錢	同	七十八錢
廿六冊（一年）	同	一圓三十錢	同	一圓四十三錢

一冊 金六錢　郵税 金五厘

廣告料及無料廣告

一行（廿七字詰）	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く
○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲くるものにて一切無料さす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增さ定む。

發行所
東京市麹町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

純金平打指環(槌目)又は(無地) 四匁付十五圓五十二錢○三匁付十一圓八十九錢○二匁付八圓二十六錢
廿二金 四匁付十四圓六十四錢○三匁付十一圓二十三錢○二匁付七圓八十二錢
二十金 四匁付十四圓二十錢○三匁付十圓九十錢○二匁付七圓六十錢
十八金 ○四匁付十二圓○三匁付九圓二十五錢○二匁付六圓五十錢
十四金 四匁付九圓八十錢○三匁付七圓六十錢○二匁付五圓四十錢
九金 四匁付六圓九十四錢○三匁付五圓四十五錢○二匁付三圓九十七錢
認印付は前記の外一圓增し篆刻料は一字一圓

此の外金若しくは白金地(プラチナ)へ寶石寶玉を裝嵌したるもの又は種々の彫刻を施したるもの許多有之候間御來車の上現品御一覽下さるか郵便御注文あれは寶石入若しくは彫刻等の區別を指示し代金御送付あれは其價に相當の品を精撰して調進すへし若し貴意に適さる時は購求當日より時計は卅日他の諸品は一周間以內は(府外は相當の往復日數を加ふべし)凡そ其物品に破損毀傷なきに於ては何時にても需に應して他の物品と交換し又は原價にて買戾し聊かたりとも其爲に手數料若くは割引等を加へさるへし 但し特別の注文又は好みに依りて調製したる物品は此限に非ず其他の手續は弊堂の店則を御參觀あるべし又特に御注文の分は如何なるものにても御好に隨ひて調製すへし

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地●電話番號三百卅三

天賞堂